# 介護初任者研修

| | |
|---|---|
| 開講学科・学年 | 音楽科/音楽療法科<br>基礎科 |

| | |
|---|---|
| 担当講師 | 外部/テンダーケア |

| | |
|---|---|
| 授業形態 | 講義/演習 |
| 開講期/単位数 | 特別講習/2（2026） |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 養成講座を受講し介護初任者研修終了資格を取得する。 |

| | |
|---|---|
| 到達目標 | 介護初任者研修終了資格を取得する。<br>高齢者領域に就職を考えている者は、希望により介護実務者研修の終了を目指す。 |

| | |
|---|---|
| 授業計画<br>（週ごと） | 1、職務の理解<br>2、介護における尊厳の保持と自立支援（1.5H）<br>3、介護職の役割、専門性と他職種との連携（1.5H）<br>4、介護・福祉サービスの理解と医療との連携、介護保険制度・障害者自立支援制度（1.5H）<br>5、老化に伴うこころとからだの変化と日常（3H）<br>6、認知症に伴うこころとからだの変化と日常、家族への支援（3H）<br>7、介護におけるコミュニケーション技術（3H）<br>8、障害の理解「障害の医療的側面、家族の心理」（1.5H）<br>9、介護の基本的な考え方（2H）<br>10、睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護（3H）<br>11、生活と家事（4H）<br>12、介護課程の基本理解（6H）<br>13、総合生活支援技術演習（6H）<br>14～15、振り返り（3H）と筆記試験（1H） |

| | |
|---|---|
| 教材・参考文献 | 指定教材を使用 |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 修了証の提出・確認により認定 |

| | |
|---|---|
| その他 | 障がい児から高齢者まで幅広く全国で通用する資格を在学中（臨床実習に出るまで）に取得します。<br>就職してからも、資格手当が付くものです。本学は茨城県認定の事業所に依頼しております。 |

# 音楽療法概論

| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>基礎科 |
|---|---|

| 担当講師 | 太田裕子 |
|---|---|

| 授業形態 | 講義 |
|---|---|
| 開講期/単位数 | 通年/2（2026） |

| 授業概要 | 音楽療法を実施するために不可欠な基礎知識を体系的に理解するとともに、「ヒトに携わる仕事」としての音楽療法が、社会に果たす枠割を多角的に考察する。またその歴史から人の生活・健康・尊厳にどのように寄与し得るのかを探求する。 |
|---|---|

| 到達目標 | ・音楽療法の基礎理論・歴史・主要概念を体系的に理解し、専門職としての視点を身につける。<br>・音楽療法が社会・医療・福祉領域で果たす役割を多角的に分析し、生活・健康・尊厳への寄与を考察できる。<br>・多職種連携の重要性を理解し、他領域の専門職と協働するための基礎的な思考と態度を形成する。 |
|---|---|

| 授業計画<br>(週ごと) | |
|---|---|
| | 1、音楽療法総説　　資格の定義、支援の構造 |
| | 2、音楽療法の定義　　治療に転用可能な音楽の機能 |
| | 3、音楽療法の対象　　領域別概要　　疾患と病気の違い |
| | 4、5、6、臨床の手順　　アセスメント、治療目標（Long-term goalsとShort-term goals）、評価、考察 |
| | 7、 振り返りの重要性と記録の取り方　スーパーバイズ |
| | 8、医療現場で用いられる用語、活動の場所やクライエントの多様化について |
| | 9～11、多職種連携　　メディカルスタッフとの連携、教育現場における音楽療法士の役割、福祉スタッフとの連携 |
| | 12、医療・福祉・教育　行政サービスと地域格差（行政サービスと各分野による連携、法改正など） |
| | 13、14、音楽療法士の倫理①　「いのちの選択（出生前検査）」 出会えなかったかもしれないクライエント |
| | 15、16、音楽療法士の倫理②　「不自由はかわいそうですか？」先天性疾患・障害の対象者への配慮とは |
| | 17、音楽療法士の倫理③　　グループディスカッション「ヒトのために存在する仕事とは」 |
| | 18～20、世界の音楽療法の歴史　　古代文明、古代エジプト、紀元前ギリシャ、中世（4種の基礎体液説） |
| | 21、22、アメリカにおける音楽療法の発展　ジュリエット・アルヴァン、E.Tガストン 他　社会学者メリアムによる機能 |
| | 23、神経学的音楽療法MichaelH.Thaut　運動（RAS、PSE、TIMP）、言語（MIT、MUSTIM、VI他）認知（MACT、MMT他） |
| | 24、25、日本における音楽療法の発展　　山松質文、加賀谷哲郎、松井紀和、日野原重明、村井靖児、遠山文吉他 |
| | 26、音楽療法理論の発展　　音楽聴取による効用、演奏の効果、歌唱の効果、ダンス（エクササイズ）による効果 |
| | 27、臨床における音楽療法士としての倫理①　クライエントやその家族への配慮、尊厳、インフォームドコンセント |
| | 28、臨床における音楽療法士としての倫理②　個人情報の取り扱いとチーム間での情報共有 |
| | 29、施設・病院など臨床実習を前に、、、。　病院で働く者（メディカルスタッフ）、施設で働く者の役割（福祉の現場） |
| | 30、まとめと振り返り　　施設実習（服装・体調管理等） |

| 教材・参考文献 | 「音楽療法入門Ⅰ～理論と実践」〔第3版〕 W.Bデイビス+KE.グフェラー+M.H.タウト編　一麦出版社<br>「標準音楽療法入門上」理論編　篠田知璋・加藤美知子編集　日野原重明監修 |
|---|---|

| 評価方法 | 定期試験（筆記）・出席率・授業態度 |
|---|---|

| その他 | 音楽療法を学ぶ者にとって、知識・倫理感などすべての入り口となる教科。 |
|---|---|

# 研究と倫理

| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>1年 |
|---|---|

| 担当講師 | 太田裕子 |
|---|---|

| | |
|---|---|
| 授業形態 | 講義 |
| 開講期/単位数 | 通年/2（2026） |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 音楽療法分野における研究の基礎と倫理を学び、研究とは何かを理解する。<br>症例・事例研究の方法、統計の基礎、実験・観察・介入・質的研究など主要なデザインを扱う。<br>次年度の卒業研究に必要な科学的思考力と倫理的判断力を身につける。 |

| | |
|---|---|
| 到達目標 | 研究の基礎概念と研究倫理を理解し、個人情報管理や倫理的配慮を適切に判断できる力を身に付ける。<br>症例・事例研究の構造を理解し、実験・観察・介入・質的研究など多様なデザインを比較検討できる。<br>記述統計からｔ検定・ANOVA・重回帰分析までの基礎的統計法を用いて、データを読み取り分析する基礎力を養う。 |

| 授業計画<br>（週ごと） | |
|---|---|
| | 1、研究活動とは　　学術研究とその他の研究 |
| | 2、学術研究の種類　　自然科学・社会科学・人文科学・数学 |
| | 3～4、学術論文の目的・形式・掲載媒体と特徴 |
| | 5～6、事例・症例研究や報告、目的・形式・掲載媒体・特徴 |
| | 7、音楽療法の症例・事例報告の書き方 |
| | 8～9、観察法　　自然観察法と実験観察法 |
| | 10、レポート・論文と作文・感想文の違い |
| | 11、リサーチクエスチョン |
| | 12、クリニカルクエスチョン |
| | 13、研究の種類　　分断研究・横断研究・介入研究 |
| | 14～15、因果関係と相関関係 |
| | 16～17、グループワーク「私たちの生活で研究の末にスタンダードになったものを探してそのルーツを辿る」（計算機など） |
| | 18、グループ別に発表　5つのグループ別に発表 「歴史を文献で辿り発表」 |
| | 19～20、学術研究・症例の検索 |
| | 21、データ　　量的データと質的データとは |
| | 22、尺度　　間隔尺度・比例尺度・名義尺度・順序尺度 |
| | 23、独立変数と従属変数 |
| | 24～25、サンプリングとは　無作為抽出法（単純無作為・系統・クラスター）有意抽出法（雪だるま・応募・インターセプト） |
| | 26、アンケート調査　　選択回答式・自由回答式　　NRS・VASスコア・Faces Pain Scale |
| | 27、アンケート調査法　　面接調査・留置調査・郵便調査・電話調査・Web調査 |
| | 28、統計法①　平均値・中央値・最頻値　　グラフ（折れ線・棒・箱ひげなど）　　頻度 |
| | 29、統計法②　t検定・ANOVA・重回帰分析　　欠損データとバイアス |
| | 30、まとめと振り返り |

| | |
|---|---|
| 教材・参考文献 | 「ていねいな保健統計学第2版」白戸亮吉、鈴木研太著　羊土社<br>音楽療法関連領域の症例・事例レポート |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 定期試験（筆記）・出席率・レポート提出 |

| | |
|---|---|
| その他 | すぐ研究に取り掛かるのではなく、まず基礎知識を学び、次年度の卒業研究の症例発表に備えるための授業。 |

# 音楽療法の理論

| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>基礎科・１年 |
|---|---|

| 担当講師 | 葛西美紀 |
|---|---|

| 授業形態 | 講義 |
|---|---|
| 開講期/単位数 | 通年/2（2027） |

| 授業概要 | |
|---|---|
| | 音楽療法の定義・歴史・理論を体系的に学び、臨床で必要となる基礎知識と実践的視点を身につける。 |
| | 音楽の生理・社会・心理的作用について概論で学んだことを基に対象者の状態に応じたアプローチを検討する。 |
| | アセスメントから評価までのプロセス、倫理、実習前の基本姿勢を総合的に扱う。 |

| 到達目標 | |
|---|---|
| | 音楽療法の原理と主要理論を説明することができ、臨床での応用を理論的に述べることができる。 |
| | 対象者の状態を踏まえた治療目標設定・方法選択・評価の流れを理解し口頭で説明することができる。 |
| | 音楽療法士として必要な資質・倫理観・記録・報告の基本を身に付け、実習に向けた準備が整う。 |

| 授業計画<br>（週ごと） | |
|---|---|
| | １、オリエンテーションと授業説明 |
| | 2～3、身体へのアプローチ（音のエネルギーと感覚刺激としての音楽） |
| | 4～5、補聴器と人工内耳 |
| | 6～7、難聴児　言語の発達を促す音楽療法 |
| | 8～9、難聴児　１０歳の壁と非言語のコミュニケーション |
| | １０～１２、受動的音楽療法（レセプティブ）と能動的音楽療法（アクティブ）　アプローチ別の技法と理論 |
| | １３、同質の原理（感情の受容と安定・精神の浄化）　アエラ・アルトシューラー |
| | １４、行動科学的音楽療法（望ましい行動の習得・不適応行動の軽減・療育） |
| | １５～１８、、神経学的音楽療法NMT（RAS・TIMP・MIT・VIT・MACT・MEFTほか）マイケル・タウト |
| | １９、創造的音楽療法（Music Child・即興・自己表現力・自己肯定感）ノードフ&ロビンス |
| | 20、音楽によるイメージ誘導法GIM（変性意識状態・潜在意識・トラウマの解消と自己洞察の深化）ヘレン・ボニー |
| | ２１、生理的、心理的アプローチ（音楽の物理的振動・心拍数・１/fゆらぎ・コルチゾールの減少・鎮静効果） |
| | 22～23、音楽を使用した回想法（音楽と記憶・認知症のBPSDの緩和・長期記憶刺激・抑うつ傾向への効果） |
| | 24、分析的音楽療法AMT（ユング・フロイト・精神分析・抑圧された感情）プリーストリー |
| | 25、認知・表象理論（知覚と注意・高度な認知機能ネットワーク・認知心理学的理論） |
| | 26、調整的音楽療法（能動的と受動的の明確化・レギュラトール・自律訓練法的）クリストフ・シュヴァーベ |
| | 27～29、アメリカ系の行動変容重視とヨーロッパ（ドイツ系）のレギュラトール重視　国や文化によるアプローチの違い |
| | 30、まとめ　ディスカッション形式「理論を臨床に活かすには」 ※それぞれ理論を一つ選び具体例を挙げる |

| 教材・参考文献 | |
|---|---|
| | |

| 評価方法 | |
|---|---|
| | 定期試験・前期：筆記/後期：レポート・出席率・授業態度 |
| | |

| その他 | |
|---|---|
| | |
| | |

# 音楽療法各論Ⅰ

| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>基・1 |
|---|---|

| 担当講師 | 太田裕子 |
|---|---|

| 授業形態 | 講義 |
|---|---|
| 開講期/単位数 | 通年/2（2027） |

| 授業概要 | |
|---|---|
| | ・発達に関するニーズをもつクライエントの臨床に必要な手順を、子どもを取り巻く環境の現状を含めて学ぶ。 |
| | ・身体の発達を含むリハビリの基礎を理解し、臨床で求められる視点を身に付ける。 |
| | ・先天性、後天性疾患や遺伝子関連疾患など、臨床現場で求められる医学的基礎知識を習得する。 |

| 到達目標 | |
|---|---|
| | 発達に関するニーズをもつクライエントの臨床過程を家族・支援者・環境因子を含めた生態学的視点から説明できる。 |
| | 身体発達・感覚統合・運動機能を含むリハビリの基礎理論を踏まえ臨床場面で必要な観察指標やリスク管理ができる。 |
| | 先天性・後天性疾患・遺伝子関連・発達障害などに関する医学的知識を臨床推論に応用し、支援計画に反映できる。 |

| 授業計画<br>（週ごと） | |
|---|---|
| | 1、オリエンテーションと授業の概要説明 |
| | 2、胎児・乳児（2ヶ月～6か月）の音への反応 |
| | 3、幼児の音への反応（1歳半～5歳）の音への反応 |
| | 4、反射運動と随意運動、 姿勢の制御 |
| | 5、子どもの心拍数からみる楽曲の検討 |
| | 6、社会性の発達期　ルールのある遊び　微細運動の発達 |
| | 7～8、DSM-Ⅴにおける診断基準　神経発達障害（ADHD・ASD・LD）、知的障害 |
| | 9、知的障害の概念と定義　定義・原因（生理的・遺伝的・後天的） |
| | 10～11、先天性とはどこから？　臨界期・胚子期、器官の成立週数、染色体異常（21. 13. 18トリソミー）、先天奇形 |
| | 12、子どもの発達と成長の違い |
| | 13～15、子どもの発達を支える　医療（Dr.RN、OT、PT、ST、MT）<br>福祉（児童発達支援管理責任者、保育士、自治体）教育（教師・自治体） |
| | 16、身体障害　脳性麻痺、てんかん、筋ジストロフィー |
| | 17～18、リハビリテーション　子どものリハビリテーションと成人のリハビリテーション（獲得と再起） |
| | 19～21、家族支援　障害受容までの過程（D.Drotar論と上田敏論）、遺伝カウンセリング、パーフェクトベビー願望 |
| | 22、アクティブトリートメント |
| | 23、知的障がいをもつ子どもへの音楽療法の活動目標 |
| | 24、身体障がいをもつ子どもへの音楽療法の活動目標 |
| | 25～26、多職種横断で支える子どもの支援 |
| | 27～28、地域コミュニティー①　地方自治体の格差と医療格差 「小児科の減少と専門医」 |
| | 29、医療、福祉、教育の隙間で埋もれる子どもたち |
| | 30、まとめと振り返り（試験範囲発表） |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

| 教材・参考文献 | |
|---|---|
| | 「音楽療法入門Ⅰ～理論と実践」〔第3版〕 W.Bデイビス+KE.グフェラー+M.H.タウト編　一麦出版社 |
| | 「ネルソン小児科学」原著第19版 編集：五十嵐隆ほか ELSEVIER |
| | 「発達障害の子の療育が全部わかる本」原哲也著 講談社 |

| 評価方法 | |
|---|---|
| | 定期試験（筆記）・出席率・授業態度 |
| | |

| その他 | |
|---|---|
| | |
| | |

# 音楽療法各論Ⅱ

| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>基礎科・1年 |
|---|---|

| 担当講師 | 太田裕子 |
|---|---|

| 授業形態 | 講義 |
|---|---|
| 開講期/単位数 | 通年/2（2026） |

| 授業概要 | |
|---|---|
| | メンタルヘルスに課題をもつ子ども、成人、家庭、高齢者の特徴と疾患・障害、社会生活上の困難を理解する。 |
| | その理解を基に、音楽療法のアセスメントから評価までのプロセスを体系的に学ぶ。 |
| | 家族支援、多職種との連携、地域連携を含むメンタルヘルス領域の実践的介入を身に付ける。 |

| 到達目標 | |
|---|---|
| | 世代別のメンタルヘルスの特徴と主要な疾患・障害・社会生活上の課題を説明できる。 |
| | 対象者に応じた音楽療法のアセスメント、目標設定、介入計画、評価を構築できる。 |
| | 家族支援や多職種・地域連携の意義を理解し、実践に活かす視点を持つことができる。 |

| 授業計画<br>(週ごと) | |
|---|---|
| | 1.精神科領域での音楽療法の意義について考える。 |
| | 2~4.子どものメンタルヘルス①　いじめ・不登校・ひきこもり |
| | 5~6.子どものメンタルヘルス②　発達障害・希死念慮 |
| | 7.大人のメンタルヘルス①　ひきこもり（個人内要因、家庭内要因、社会文化的要因） |
| | 8.大人のメンタルヘルス②　自殺予防（精神疾患・障害と希死念慮、いのちを守るソーシャルシステム） |
| | 9.大人のメンタルヘルス③　家庭・家族関係（結婚、出産、育児、夫婦を中心としたシステムへの回帰、配偶者の死） |
| | 10.労働者のメンタルヘルス①（戦後～現在まで職場におけるメンタルヘルスの変化） |
| | 11.労働者のメンタルヘルス②（疾病構造の変化、向精神薬の発展と精神疾患治療の変化） |
| | 12.労働者のメンタルヘルス③（職場のストレスとストレッサー） |
| | 13.社会人1年目のメンタルヘルス①（新入社員の理想と現実のギャップ、適応までのプロセス） |
| | 14.社会人1年目のメンタルヘルス②（仕事観ギャップ、ピーターパン症候群、シンデレラコンプレックス） |
| | 15.職場のメンタルヘルス③（人間関係・仕事内容・通勤や郎度条件の変化によるメンタルの変化） |
| | 16.会社と自分④（中間管理職、組織と業務・人間関係による影響） |
| | 17.働く人①（職場不適応症と対応と治療、）労災（産業医と社員の関係） |
| | 18.働く人②（職場復帰と復職判定） |
| | 19.働く人③（定年退職とアイデンティティの再構築、受容、配偶者との関係） |
| | 20.高齢者のメンタルヘルス①（ライフイベントの変化と身体的変化による喪失感と焦燥感） |
| | 21.気分障害①　うつ病　子ども、思春期、青年期、職場、壮年期、老年期、女性）症状・原因・治療と支援 |
| | 22.気分障害②　統合失調症　病前期、学童期、小児、思春期、破瓜型、予防と介入、スティグマ（烙印）の対応 |
| | 23~24.パーソナリティ障害　パーソナリティ症（A群・B群・C群）、BDP（思春期・青年期、加齢）、BPDの親をもつ子ども |
| | 25.摂食障害　小中学生、高校大学生、青年期、摂食障害の治療（心理的アプローチ） |
| | 26.メンタルヘルスに関する精神保健医療福祉サービス と地域連携サービス |
| | 28.臨床　アセスメント、目標設定　検査指標、曲の選択について、安心安全な環境とは |
| | 29臨床　介入計画（トラウマ・リスク）、介入（反応に対する観察・ゴールの設定）、評価（達成度を多面的に評価する） |
| | 30.まとめと振り返り |

| 教材・参考文献 | |
|---|---|
| | 「音楽療法入門Ⅰ～理論と実践」〔第3版〕 W.Bデイビス+KE.グフェラー+M.H.タウト編　一麦出版社 |
| | 「メンタルヘルス入門」島悟著　日本経済新聞　日経文庫 |

| 評価方法 | |
|---|---|
| | 定期試験（筆記）・出席率・授業態度 |

| その他 | |
|---|---|
| | 音楽の心理的作用を使用して臨床を行うための科目。 |

# 音楽療法各論Ⅲ

| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>基礎科・１年 |
|---|---|

| 担当講師 | 嶋田恵利子 |
|---|---|

| 授業形態 | 講義 |
|---|---|
| 開講期/単位数 | 通年/2（2026） |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 音楽療法各論Ⅲでは、高齢者に対する音楽療法でのプログラムに関する事、高齢者に対しての音楽療法で必要な項目を実習と結びつけて学ぶ。また、臨床における音楽療法士としての配慮なども併せて学ぶこととする。 |

| | |
|---|---|
| 到達目標 | 1. 高齢者音楽療法の基本的な技能を身につける<br>2. 高齢者音楽療法の効果の説明ができる<br>3. 高齢者音楽療法の効果に基づいたプログラム構成ができ、実習へと繋げる事ができる |

| | |
|---|---|
| 授業計画<br>(週ごと) | 第1回：オリエンテーション |
| | 第2回：高齢者の音楽療法の目的と効果 |
| | 第3回：高齢者社会、高齢者患者音楽療法の有効性と効果について |
| | 第4回：MCI（軽度認知障害）について |
| | 第5回：高齢者音楽療法の目標とプログラム構成理論 |
| | 第6回：高齢者音楽療法の目標とプログラム構成理論 |
| | 第7回：実践の工夫　症例報告 |
| | 第8回：実践の工夫　症例報告 |
| | 第9回：睡眠やベッドサイドでの高齢者音楽療法 |
| | 第10回：デイサービスや軽度認知障害（MCI）に対する音楽療法 |
| | 第11回：がん関連の音楽療法紹介 |
| | 第12回：痛みに関する音楽療法 |
| | 第13回：ホスピスと緩和ケアの音楽療法 |
| | 第14回：ホスピスと緩和ケアの音楽療法 |
| | 第15回：音楽療法の課題　記録の仕方 |
| | 第16回：各施設の種類やスタッフへの対応について |
| | 第17回：グループでの模擬実践についての計画 |
| | 第18回：グループでの模擬実践についての計画 |
| | 第19回：グループでの模擬実践発表 |
| | 第20回：グループでの模擬実践発表 |
| | 第21回：模擬実践についての評価　課題について |
| | 第22回：模擬実践についての評価　課題について |
| | 第23回：エンドオブライフ・ケアにおける音楽療法 |
| | 第24回：Well-beingとは何か |
| | 第25回：介護予防とケアパートナーへ影響や患者家族に対する音楽療法 |
| | 第26回：振り返り |
| | 第27回：総合演習 |
| | 第28回：総合演習 |
| | 第29回：まとめ |
| | 第30回：期末評価 |

| | |
|---|---|
| 教材・参考文献 | 最新研究による高齢者音楽療法/音楽之友社/貫　行子 |
| | 音楽療法入門Ⅱ/一麦出版社/栗林文雄監訳　　音楽療法入門Ⅲ/一麦出版社/栗林文雄監訳 |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | ・平常点（出席・態度・小テスト）：25%　・課題提出：25% |
| | ・期末試験（または実技評価）：50% |

| | |
|---|---|
| その他 | |

# 音楽療法技法Ⅰ

| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>基礎科・1年 |
|---|---|

| 担当講師 | 葛西美紀 |
|---|---|

| 授業形態 | 実技/演習 |
|---|---|
| 開講期/単位数 | 通年/1（2026~2027） |

| 授業概要 | この授業では、音楽療法における作曲の役割と意義を理解し、対象者の心身の状態や目的に応じた楽曲を創作するための基礎的な知識と技法について学びます。 |
|---|---|

| 到達目標 | 1. 音楽療法における作曲の目的と役割を理解する。<br>2. 対象者の年齢や特性、目的に応じた楽曲を創作できるようにする。<br>3. 創作した楽曲を実践的な視点から評価し、改善することができるようにする。 |
|---|---|

| 授業計画<br>(週ごと) | |
|---|---|
| | 第1回：オリエンテーション |
| | 第2回：音楽療法における作曲の意義と役割① |
| | 第3回：音楽療法における作曲の意義と役割② |
| | 第4回：音楽療法で用いられる楽曲の特徴と分析① |
| | 第5回：音楽療法で用いられる楽曲の特徴と分析② |
| | 第6回：コード進行の基礎・童謡を用いた伴奏付け① Cdur |
| | 第7回：確認・発表 |
| | 第8回：童謡を用いた伴奏付け② Cdur |
| | 第9回：確認・発表 |
| | 第10回：童謡を用いた伴奏付け③ Gdur |
| | 第11回：童謡を用いた伴奏付け④ Gdur |
| | 第12回：目的に合わせた伴奏形① |
| | 第13回：目的に合わせた伴奏形② |
| | 第14回：振り返り |
| | 第15回：期末評価 |
| | 第16回：目的に合わせた変奏① |
| | 第17回：目的に合わせた変奏② |
| | 第18回：童謡を用いた伴奏付け⑤ |
| | 第19回：童謡を用いた伴奏付け⑥ |
| | 第20回：確認・発表 |
| | 第21回：移調奏① |
| | 第22回：移調奏② |
| | 第23回：メロディー創作の基礎① |
| | 第24回：メロディー創作の基礎② |
| | 第25回：メロディー創作の基礎③ |
| | 第26回：歌詞づくりと言葉がけの工夫① |
| | 第27回：歌詞づくりと言葉がけの工夫② |
| | 第28回：確認・発表 |
| | 第29回：振り返り |
| | 第30回：期末評価 |

| 教材・参考文献 | 音楽療法で使う即興・伴奏・作曲初心者のための30日間マスター/あおぞら音楽社/菅田文子著 |
|---|---|

| 評価方法 | ・平常点（出席・態度・小テスト）：40%　・課題提出：20%<br>・期末試験（または実技評価）：40% |
|---|---|

| その他 | ・日本音楽療法学会認定音楽療法士資格審査受験に関連 |
|---|---|

# 音楽療法技法Ⅱ

| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>1・2・3 |
|---|---|

| 担当講師 | 葛西美紀 |
|---|---|

| 授業形態 | 実技/演習 |
|---|---|
| 開講期/単位数 | 通年/1（2026~2027） |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | この授業では、音楽療法における歌唱活動の意義を理解し、対象者の年齢や心身の状態、目的に応じた歌唱の方法について学びます。歌唱指導の基礎を身につけるとともに、季節の歌や唱歌、童謡、歌謡曲など幅広いレパートリーを習得し、音楽療法の実践場面で活用できる歌唱技術と表現力を養う。 |

| | |
|---|---|
| 到達目標 | 1. 音楽療法における歌唱活動の目的と効果を理解する。<br>2. 対象者の年齢や特性、心身の状態に応じた楽曲を選択し、適切に歌唱できる。<br>3. 歌唱を通して対象者とのコミュニケーションを促し、音楽療法における支援方法を実践できる。<br>4. 音楽療法の目的に応じた歌唱プログラムを立案し、実践・評価することができる。 |

| 授業計画<br>（週ごと） | |
|---|---|
| | 第1回：オリエンテーション |
| | 第2回：音楽療法における歌唱活動の役割と意義① |
| | 第3回：音楽療法における歌唱活動の役割と意義② |
| | 第4回：歌唱の基礎① |
| | 第5回：歌唱の基礎② |
| | 第6回：楽曲選択の考え方と対象者への適応① |
| | 第7回：楽曲選択の考え方と対象者への適応② |
| | 第8回：グループワーク |
| | 第9回：確認・発表 |
| | 第10回：童謡・唱歌を用いた歌唱活動① |
| | 第11回：童謡・唱歌を用いた歌唱活動② |
| | 第12回：季節の歌・行事の歌の活用 |
| | 第13回：季節の歌・行事の歌の活用 |
| | 第14回：振り返り |
| | 第15回：期末評価 |
| | 第16回：季節の歌・行事の歌の活用 |
| | 第17回：季節の歌・行事の歌の活用 |
| | 第18回：グループワーク① |
| | 第19回：グループワーク |
| | 第20回：確認・発表 |
| | 第21回：対象者に合わせた歌唱活動① |
| | 第22回：対象者に合わせた歌唱活動② |
| | 第23回：歌唱プログラムの作成① |
| | 第24回：歌唱プログラムの作成② |
| | 第25回：グループワーク |
| | 第26回：模擬セッション |
| | 第27回：模擬セッション |
| | 第28回：確認・発表 |
| | 第29回：振り返り |
| | 第30回：期末評価 |

| | |
|---|---|
| 教材・参考文献 | 歌謡1001上ひき語り歌謡のすべて/全音楽譜出版社/鈴江弘康編著者<br>歌の宝石箱/ドレミ楽譜出版社/呉竹英一編著者　実用子どもの歌曲200選/ドレミ楽譜出版社/松山祐士編著者<br>幼稚園・保育園でおぼえる歌ベスト100曲集/全音楽譜出版社/西崎嘉太郎編著者<br>音楽療法の必須100曲子ども編・おとな編・高齢者編・ノスタルジー編/あおぞら音楽社/菅田文子 |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | ・平常点（出席・態度・小テスト）：40%　・課題提出：20%<br>・期末試験（または実技評価）：40% |

| | |
|---|---|
| その他 | ・日本音楽療法学会認定音楽療法士資格審査受験に関連 |

# 歌唱法（音楽療法技法Ⅲ）

| 開講学科・学年 | 音楽科/療法科<br>1・2/基・1・2 |
|---|---|

| 担当講師 | 手塚久美子 |
|---|---|

| 授業形態 | 実技/演習 |
|---|---|
| 開講期/単位数 | 通年/2（2026~2028） |

| 授業概要 | この授業では、複数の人が複数の声部に分かれ美しいハーモニーを創り上げることを学びます。<br>また「歌う」「創る」「表現する」「届ける」を複数で行うことのより「協調性」を学びます。 |
|---|---|

| 到達目標 | 1．身体全体を使って発声（声を出す）　2．音程、リズムの基本的な技能を身につける　3．音程やリズムに母音や子音を意識して歌詞を載せて歌うことを身に付ける　4．互いの声を聴き合いハーモニーを創り協調性を養う<br>5.ハーモニーを創り歌詞をどのように載せて表現すれば自分たちの演奏を届ける |
|---|---|

| 授業計画<br>（週ごと） | |
|---|---|
| | 第1回：オリエンテーション／歌うという基礎的な音階名と音の一致 |
| | 第2回：発声と音程 |
| | 第3回：発声と音程とリズム |
| | 第4回：自習日を利用して1回～3回までの確認と演習 |
| | 第5回：簡単な2声～3声のアンサンブルを歌う |
| | 第6回：パート別に音程とリズムを確認する |
| | 第7回：全員で合わせてバランスを聴き取る |
| | 第8回：自習日を利用して5回～７回までの確認と演習 |
| | 第9回：音程、リズムに歌詞を載せて歌う |
| | 第10回：言葉の仕組みを考えて（母音と子音 等）歌詞を伝える |
| | 第11回：言葉のイントネーション、アクセント等も意識する |
| | 第12回：実践演習（これまでの学習をコンサートで活かせるようにする） |
| | 第13回：音楽に載せて歌詞を届ける（表現）大切さを学ぶ） |
| | 第14回：各パートとのバランスを学ぶために、他のパートも聴く大切さを学ぶ |
| | 第15回：学期末試験前に1～１４の確認と繰り返し復習する |
| | 第16回：階名と音程は継続して行う |
| | 第17回：アカペラ曲で音程やハーモニーを確認 |
| | 第18回：R9・3月の謝恩会に全員合唱を行う曲の取り組む |
| | 第19回：リズムや音程の正確さを身に付け美しいハーモニーを創りだせるよう繰り返し練習する |
| | 第20回：自習日を利用して16～19までの確認 |
| | 第21回：後期末試験・卒業謝恩会での演奏曲に取り組む |
| | 第22回：音程、リズム、ハーモニーの確認 |
| | 第23回：アーティクレーションに気を付けて歌詞を載せて歌う |
| | 第24回：強弱の付け方でフレーズに表情を付けたり奏法記号を参考にして表現を考える |
| | 第25回：互いに聴きあい高音部、低音部等のバランスを考える |
| | 第26回：パート別や少人数で合わせて互いに聴き合う |
| | 第27回：自習日を利用して22～27を繰り返し練習する |
| | 第28回：27に同じく繰り返し練習して他のパートと合わせる |
| | 第29回：自習日を利用して苦手部分を少しでも無くせるようにする |
| | 第30回：期末試験を前に繰り返し練習 |

| 教材・参考文献 | ・ア・カペラ同声合唱曲集Ⅰ「花いちもんめ」/東京音楽書院/蓑田良子編<br>・カンターレ「高校・短大・大学・看護・福祉学校副教材集/音楽之友社編・アンコール名曲集ポピュラー篇/カワイ出版/源田俊一郎編<br>・ゴスペル・ソング編２/サーベル社/谷口佳子編　等 |
|---|---|

| 評価方法 | ・期末試験（実技評価）　・出席率・授業態度 |
|---|---|

| その他 | |
|---|---|

# デジタルデバイス論（音楽療法技法Ⅲ）

| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>音楽科1・2/療法科基.1 |
|---|---|

| 担当講師 | 吉川賢 |
|---|---|

| 授業形態 | 講義/演習 |
|---|---|
| 開講期/単位数 | 通年/2（2026~2027） |

| 授業概要 | 本授業では、現代の音楽制作や音楽活動に欠かせないデジタルデバイスおよびデジタル技術について体系的に学習する。電子楽器の発音原理、MIDI規格、デジタルオーディオ、ファイル形式、コンピュータシステム、ネットワーク、クラウドサービス、動画配信、Web会議、AI技術、著作権、情報モラル、ITリテラシーなど、音楽業界で必要とされるデジタル知識を総合的に理解することを目的とする。MIDI検定4級・3級・2級筆記試験に対応できる知識の習得。 |
|---|---|

| 到達目標 | 1. 電子楽器の基本構造を説明できる。2. MIDIの仕組みと各種メッセージを理解できる。3. デジタルオーディオの基礎理論を理解できる。6. 音楽制作に使用される各種ファイル形式を説明できる。 7. 音楽配信・動画配信・Web会議の仕組みを理解できる。 8. 著作権・肖像権・情報モラルについて理解する。9. 必要なITリテラシーを身につける。 |
|---|---|

| 授業計画（週ごと） | |
|---|---|
| | 第１回　オリエンテーション |
| | 第２回　デジタル技術の基礎（アナログとデジタル） |
| | 第３回　コンピュータの基礎知識 |
| | 第４回　電子楽器の歴史と発展 |
| | 第５回　電子楽器の発音方式 |
| | 第６回　MIDIの基礎（MIDI誕生の背景・通信規格・MIDIの役割） |
| | 第７回　MIDIメッセージ①（ノートオン・ノートオフ・ベロシティ） |
| | 第８回　MIDIメッセージ②（プログラムチェンジ・コントロールチェンジ） |
| | 第９回　MIDI規格（GM・GS・XG・SMF） |
| | 第１０回　同期技術（MIDI Clock・MTC・テンポ同期・タイムコード） |
| | 第１１回　デジタルオーディオ（サンプリング周波数・量子化・ビット深度） |
| | 第１２回　MIDIシステム構成（MIDI IN・OUT・THRU・ルーティング） |
| | 第１３回　MIDI活用事例①（演奏・作曲・編曲・ライブ・教育現場） |
| | 第１４回　総合演習（MIDI・オーディオルーティング） |
| | 第１５回　前期まとめ（理解度確認） |
| | 第１６回　音楽制作システム（DAWの役割・制作環境・周辺ソフトウェア） |
| | 第１７回　データ管理（バックアップ・フォルダ管理・バージョン管理） |
| | 第１８回　音楽ファイル形式（WAV・AIFF・MP3・AAC・FLAC・SMF） |
| | 第１９回　画像・動画ファイル形式（JPEG・PNG・GIF・TIFF・MP4・MOV） |
| | 第２０回　クラウドサービス（Google Drive・Dropbox・OneDrive・iCloud） |
| | 第２１回　音楽配信（ストリーミング・ダウンロード販売・ディストリビューター） |
| | 第２２回　動画配信（YouTube・TikTok・Instagram・ライブ配信） |
| | 第２３回　Web会議・オンラインレッスン（Zoom・Google Meet・Microsoft Teams） |
| | 第２４回　AIと音楽制作（生成AI・自動採譜・AI作曲・AIボーカル） |
| | 第２５回　著作権①（著作権・著作者人格権・著作隣接権） |
| | 第２６回　著作権②（配信・SNS利用・生成AI時代の著作権） |
| | 第２７回　ITリテラシー（情報セキュリティ・個人情報保護・フィッシング対策） |
| | 第２８回　演奏空間の音響①（残響・初期反射・音の広がり） |
| | 第２９回　総合演習（著作権などの総合的な知識の整理とケーススタディ） |
| | 第３０回　総まとめ |

| 教材・参考文献 | ミュージッククリエイターハンドブック（社団法人 音楽電子事業協会） |
|---|---|

| 評価方法 | 定期試験（筆記）・出席率・授業態度 |
|---|---|

| その他 | |
|---|---|

# 即興伴奏法（音楽療法技法Ⅳ）

| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>基礎・Ⅰ |
|---|---|

| 担当講師 | 葛西美紀 |
|---|---|

| 授業形態 | 講義 |
|---|---|
| 開講期/単位数 | 通年/1（2026~2027） |

| 授業概要 | この授業では、音楽療法における即興演奏の基本的な理論と実践を学びます。<br>歌唱や楽器演奏を通して、対象者の感情や表現を受け止め、それに応答する即興的な<br>関わり方を身につける。<br>コミュニケーション手段としての音楽の役割や、対象者に応じた即興演奏の方法について理解を深める。 |
|---|---|

| 到達目標 | 1. 音楽療法における即興演奏の意義を理解する。<br>2. 基本的な即興伴奏やリズム、メロディによる応答ができる。<br>3. 対象者の状態や反応に合わせた音楽的コミュニケーションが実践できる。<br>4. 臨床場面を想定し、適切な即興演奏を実践できるようにする。 |
|---|---|

| 授業計画<br>(週ごと) | |
|---|---|
| | 第1回：オリエンテーション |
| | 第2回：音楽療法における即興演奏の意義 |
| | 第3回：音楽的コミュニケーションの基礎① |
| | 第4回：音楽的コミュニケーションの基礎② |
| | 第5回：臨床事例を用いた即興伴奏法① |
| | 第6回：臨床事例を用いた即興伴奏法② |
| | 第7回：グループワーク① |
| | 第8回：グループワーク② |
| | 第9回：確認・発表 |
| | 第10回：メロディ・歌唱を用いた即興演奏① |
| | 第11回：メロディ・歌唱を用いた即興演奏② |
| | 第12回：コード進行とピアノによる即興伴奏法① |
| | 第13回：コード進行とピアノによる即興伴奏法② |
| | 第14回：振り返り |
| | 第15回：期末評価 |
| | 第16回：表現感情を促す即興演奏① |
| | 第17回：表現感情を促す即興演奏② |
| | 第18回：グループワーク① |
| | 第19回：グループワーク② |
| | 第20回：確認・発表 |
| | 第21回：リズム・打楽器を活用した即興活動① |
| | 第22回：リズム・打楽器を活用した即興活動② |
| | 第23回：対象者に合わせた実践① |
| | 第24回：対象者に合わせた実践② |
| | 第25回：グループワーク① |
| | 第26回：グループワーク② |
| | 第27回：模擬セッション① |
| | 第28回：模擬セッション② |
| | 第29回：振り返り |
| | 第30回：期末評価 |

| 教材・参考文献 | 音楽療法で使う即興・伴奏・作曲初心者のための30日間マスター/あおぞら音楽社/菅田文子著 |
|---|---|

| 評価方法 | ・平常点（出席・態度・小テスト）：40%　・課題提出：20%<br>・期末試験（または実技評価）：40% |
|---|---|

| その他 | ・日本音楽療法学会認定音楽療法士資格審査受験に関連 |
|---|---|

# 音楽療法技法Ⅴ

| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>基礎・1・2 |
|---|---|

| 担当講師 | 太田裕子 |
|---|---|

| 授業形態 | 講義/演習 |
|---|---|
| 開講期/単位数 | 前期/1（2026） |

| 授業概要 | |
|---|---|
| | 音楽と身体運動の相互作用を理解し、音楽療法の臨床における身体運動の基礎理論を理解する。 |
| | 介護予防・転倒防止に資するﾖｶﾞ、ﾌﾗﾀﾞﾝｽ、ｴｱﾛﾋﾞｸｽなど音楽と共に行う多様な身体運動を体験し運動特性を分析する。 |
| | 「動作」と日常生活の関連を理解し、音楽を用いた動作支援・ADLのための介入方法を検討する。 |

| 到達目標 | |
|---|---|
| | ・音楽と身体運動の関係性、動作模倣、転倒防止基礎理論を理解し身体運動における音楽療法の役割を説明できる。 |
| | ・ﾌﾗﾀﾞﾝｽ、ｴｱﾛﾋﾞｸｽ、ZUMBA、ﾖｶﾞなど多様な身体運動の特性を分析し、音楽療法ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑに適切に組み込む事ができる。 |
| | ・ADLの視点から動作を評価し、音楽を活用した動作支援・機能向上のための介入方法を立案できる。 |

| 授業計画<br>（週ごと） | |
|---|---|
| | 1.行動とは（作業なのか動作なのか）　作業3分類　①ADL　②IADL　③余暇・創造活動 |
| | 2.音楽と身体運動　余暇にとどまらない役割とアイデンティティ |
| | 3.運動＋音楽のアクティビティー　フラダンス・エアロビクス・ヨガ・ストレッチなど調整系・ZUMBA、HIPHOPなどダンス系 |
| | 4～5.グループ演習「深呼吸を考える」吸って吐いてという動作の目的を考え音楽を意図的計画的に使用する |
| | 6.自己学習課題「音楽に動作を合わせるのか？動作に音楽を合わせるのか？シーン別の分析」 |
| | 7.「深呼吸を考える」グループごとに発表 |
| | 8.作業療法の視点で考える「深呼吸」 作業療法と理学療法の違いから考える |
| | 9.リズムと動作の関係　動作訓練とリズム　作業活動とリズム |
| | 10.活動と健康の関係　情動調整・認知活性・身体機能の維持 |
| | 11.作業と治療的パワー　意味を感じる活動と治療効果　、楽しさからの自発性を引き出す音楽の使用 |
| | 12～13.演習課題「体操という活動を分析する」条件：動作、目的、必要な能力、環境（音楽のテンポや空間など）、治療的意味 |
| | 14.グループ演習「両胸全摘後、傷周辺が攣って上肢の運動に制限がある対象者に発散を目的とした身体運動」 |
| | 15.演習課題の提出（個人） 身体運動と音楽についてまとめのディスカッション |

| 教材・参考文献 | |
|---|---|
| | 「音楽する脳と身体」 田中昌司、伊藤康宏　共著　コロナ社 |
| | 「作業療法士になろう！」 齋藤さわ子著　青弓社 |

| 評価方法 | |
|---|---|
| | 課題レポート・課題発表・出席率・授業参加度 |

| その他 | |
|---|---|
| | 音楽療法士が動作訓練や作業訓練に音楽を使用した際の効果について理解し臨床で使用できるように |
| | なること、それを多職種に適切に説明できることが目標となります。 |

# コミュニケーション技能Ⅰ

| | |
|---|---|
| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>基礎科・１・2 |

| | |
|---|---|
| 担当講師 | 太田裕子 |

| | |
|---|---|
| 授業形態 | 演習/講義 |
| 開講期/単位数 | 前期/1　（2027） |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 音楽療法の臨床現場で求められる言語・非言語コミュニケーションの基礎と応用を体系的に学ぶ。<br>傾聴、質問技法、感情・意味の反映、観察技法など、治療的関係を築くための主要スキルを実践的に習得する。<br>ロールプレイや事例検討を通して、臨床場面で適切な対話と関わりを行う事ができるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力を育成する。 |

| | |
|---|---|
| 到達目標 | 臨床場面で必要となる言語・非言語コミュニケーションの基本技法を理解し状況に応じて使い分ける。<br>対象者の状態を観察し、適切な質問・反映・応答を通して治療的関係を構築できる。<br>音楽を媒介とした対話を実践し、臨床コミュニケーションを多職種連携にも応用できる基礎力を身に付ける。 |

| | |
|---|---|
| 授業計画<br>(週ごと) | 1～7、言語コミュニケーション<br>①傾聴力（傾聴のみと解決へ導く傾聴）<br>②1対1でオープンクエスチョンとクローズドクエスチョン実施。テーマ：「対象者の好きな事、ものすべてを聞き出す」<br>・テーマを発表する。「好きな事、もの」についてその背景を含めて発表する。<br>③感情の反映（ミラーニューロンと模倣行動）<br>・相手の言葉を繰り返す（オウム返しと音声模倣）<br>④模倣行動と好意の相関について<br>・ほめる、励ます、やる気にさせる（動機づけと成功体験）　・報酬系の脳内伝達物質構造（視床・側坐核）<br>8～11、ノンバーバルコミュニケーション<br>・傾聴（行動や表情を読み取る）<br>・対象者の観察技法（自然観察法・実験的観察法）<br>・視線、行動、姿勢、声、表情<br><br>12～13、プレゼンテーション<br>・音楽療法の臨床現場において他専門職に音楽療法の説明（音楽が果たす役割・効果）<br>・アセスメントから治療課程までに必要な対話術の確認<br><br>14～15、対象者とコミュニケーションの注意点　　安全・尊厳・治療的意図 |

| | |
|---|---|
| 教材・参考文献 | 「臨床コミュニケーションの入門書」オガワすすむ著　一粒書房 |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | ワーク・出席率・授業態度 |

| | |
|---|---|
| その他 | |

# コミュニケーション技能Ⅱ

| | | | |
|---|---|---|---|
| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>基礎・１・２ | 担当講師 | 太田裕子 |

| | |
|---|---|
| 授業形態 | 演習/講義 |
| 開講期/単位数 | 後期/１　（2026） |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 自己理解を深め、臨床者としてのコミュニケーションの癖や強みを客観的に把握する。<br>アイスブレイクやブレインストーミングなどのグループ技法を体験し、協動的な対話の進め方を学ぶ。<br>異なる意見や価値観を調整し、合意形成につなげるコミュニケーションの実践力を養う。 |
| 到達目標 | 自分のコミュニケーション傾向を分析し、臨床場面で適切に活かす視点を持つことができる。<br>グループ技法を使い、他者と協働しながら意見を整理・共有するプロセスを実践できる。<br>対立や意見の違いに対して、調整・合意形成につながる対話を構築できる。 |
| 授業計画<br>(週ごと) | １、オリエンテーション　コミュニケーションの目的理解　　自己理解とグループ技法が臨床にどうつながるか<br>２、自己理解①自分のコミュニケーション傾向の把握　　話し方、聴き方の癖を把握　　課題と強みを言語化する<br>３、自己理解②価値観、判断の傾向を分析する　価値観が対話に与える影響の理解　　偏り、反応パターンを捉える<br>４、自己理解③感情の取り扱い方と自己調整　　感情の動きがコミュニケーションに及ぼす影響<br>５、アイスブレイク①目的と臨床的意義の理解<br>６、アイスブレイク②実践と振り返り　　複数のアイスブレイクを体験し、対象者に合わせた選択理由を説明できる<br>７、ブレインストーミング①目的と臨床的意義の理解　　役割を理解し場を安全にする導入技法を説明できる<br>８、アイスブレイク②実践と振り返り　　複数のアイスブレイクを体験し対象者に合わせた選択理由を述べることができる<br>９、意見の違いの理解　　対立の構造を知る　　意見の違いが生まれる理由を理解し、「問題」だけではなく「情報」<br>１０、意見調整①　合意形成の基本ステップ　　立場・価値観・目的を整理する　合意形成のプロセスの理解<br>１１、意見調整②　ロールプレイによる対話練習　　異なる意見を持つ相手との対話に対する調整言語技法<br>１２、グループワーク①　協動的対話の進め方　「役割分担・時間管理・意見の共有などグループ運営の基本実践」<br>１３、グループワーク②　課題解決型ワークの実践　　課題⇒アイディア⇒整理⇒合意形成までの流れを体験<br>１４～１５、臨床への応用　自己理解とグループ技法が臨床コミュニケーションにどう活かせるかをまとめる |
| 教材・参考文献 | 「音楽療法ハンドブック」日本音楽療法学会　　音楽之友社<br>「ワークショップデザイン論」中野民夫著　　岩波書店 |
| 評価方法 | ワーク・出席率・授業態度 |
| その他 | |

# 実習

| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>基礎（見学）・Ⅰ・２ |
|---|---|

| 担当講師 | 室智美・嶋田恵利子<br>・小橋昌樹 |
|---|---|

| 授業形態<br>開講期/単位数 | 実習<br>通年/6（2026～2028）（各２単位×３領域） |
|---|---|

| 授業概要 | |
|---|---|
| | 子ども・成人・高齢者の各領域において、音楽療法の臨床実習を行う。基礎科は各領域の見学実習を行う。 |
| | 子ども（児童発達支援・放課後デイ）、成人（精神科病院・就労支援施設、生活支援事業所）、 |
| | 高齢者（特別養護老人ホーム・デイサービス・市町村依頼のフレール予防）、特別支援学校　ほか |

| 到達目標 | |
|---|---|
| | 音楽療法士として対象者の発達段階・生活背景に応じた支援を実践できる力を身に付ける。 |
| | 多領域（療育・精神・リハビリ・高齢者）での臨床経験を通じ、評価・記録・チーム連携を学ぶ。 |
| | 安全管理・倫理・専門職としての態度を身に付け、臨床現場で自立的に行動できることを目指す。 |

| 授業計画<br>（週ごと） | |
|---|---|
| | 【子ども】（児童発達支援サービス保育園・水戸市子ども発達支援センター・小児科病棟） |
| | ・6歳までの発達課題を基に園から提供されたアセスメントシートをもとに目標を設定する。(長期・短期) |
| | ・設定した目標を行程と遂行に分析し、目的志向的行為のひとつずつを目標として音楽の果たす役割について考える。 |
| | ・楽曲の選択または作曲をしてプログラムのプロトコルを考える。セラピスト、コ・セラピスト、伴奏者など役割分担をする。 |
| | ・実践形式での練習を繰り返し、チームで臨床を行うメリット、デメリットを理解しながら調整する。 |
| | ・現場での臨床を行い、その日のうちに振り返り、記録を付ける。 |
| | ・実習日誌を付けて、担当講師に提出。講師は日誌で個々の学習状況を確認し、コメントを記す。 |
| | ・実習日誌を付けて、担当講師に提出。講師は日誌で個々の学習状況を確認し、コメントを記す。 |
| | 【高齢者】（特別養護老人ホーム・デイサービス・市町村依頼の認知症予防） |
| | ・デイサービス、特養入居者に対する、QOL向上、Well-being、機能の維持改善などの目標を設定する。 |
| | ・設定した目標を行程と遂行に分析し、目的志向的行為のひとつずつを目標として音楽の果たす役割について考える。 |
| | ・分析した目的志向的行為のひとつずつを目標として音楽の果たす役割について考える。 |
| | ・楽曲の選択または作曲をしてプログラムのプロトコルを考える。セラピスト、コ・セラピスト、伴奏者など役割分担をする。 |
| | ・音楽と一緒に提供する小道具、歌詞幕、などの作成、準備をする。 |
| | ・実践形式での練習を繰り返し、プログラム別のアウトカムや、対象者との関わりと役目を確認する。 |
| | ・現場での臨床を行い、その日のうちに振り返り、記録を付ける。 |
| | ・実習日誌を付けて、担当講師に提出。講師は日誌で個々の学習状況を確認し、コメントを記す。 |
| | 内容：【成人】（精神科病院・就労支援施設） |
| | ・就労支援施設、病院(精神科デイケア・デイリハ)などの領域における課題と向き合い、必要な事は何か考える。 |
| | ・設定した目標を行程と遂行に分析し、目的志向的行為のひとつずつを目標として音楽の果たす役割について考える。 |
| | ・指導講師の指示のもと、アセスメントと目標設定を行い、使用する楽器、楽曲を検討しながらプログラムを作成する。 |
| | ・プログラムのプロトコルを考え、セラピスト、コ・セラピスト、伴奏者など役割分担し小道具や歌詞幕などを作成する。 |
| | ・現場での臨床を行い、その日のうちに振り返り、記録を付ける。 |
| | ・実習日誌を付けて、担当講師に提出。講師は日誌で個々の学習状況を確認し、コメントを記す。 |
| | 【見学実習】（各領域） |
| | 特別支援学校や病院、福祉サービスの各施設等で実施されている音楽療法の現場と音楽療法がまだ行われていない現場の臨床をそれぞれ見学し、臨床の可能性について、レポートを提出させる。見学実習は、次年度から始まる実習の準備として先輩方の実習を見学するものと、音楽療法が実際に行われている現場と行われていない現場において、「音楽」の力で何ができるのかを確認する見学実習の2つの方向からのアプローチを行う。 |
| | ※PGM作成、実施、施設側との交渉、現場でのセッション以外の行動は、現場担当講師の許可を得てから行う。 |

| 教材・参考文献 | |
|---|---|
| | 適宜 |
| | |

| 評価方法 | |
|---|---|
| | 出席率・準備等の参加度・現場での参加度・実習記録等を総合して評価する |
| | |

| その他 | |
|---|---|
| | 実際の対象者に対して臨床を行う貴重な時間です。あくまでも実習であり、監督の先生方も付いてます。 |
| | 尊厳等に配慮しながら、あまり慎重になり過ぎず、Try&errorから学ぶ貴重な経験をしましょう。 |

# 卒業研究

| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>2 |
|---|---|

| 担当講師 | 太田裕子 |
|---|---|

| 授業形態 | 講義 |
|---|---|
| 開講期/単位数 | 通年/4（2028） |

| 授業概要 | 音楽療法、Music Medicineや音楽反応に関する基礎研究を通して、研究計画の立案・文献検討・データ収集・分析・発表までを学ぶ。５回目以降は個別指導を中心とし、他の学生は文献検索・事例検討・研究の進行を行う。<br>最終回に、研究成果を科目関連の教員、音楽療法科の全学生に対面で発表し、卒業研究としてまとめる。 |
|---|---|

| 到達目標 | 音楽療法、Music Medicine、音楽反応に関する基礎的な研究知識を理解する。<br>自身の研究テーマを設定し、研究計画書を作成し、文献検索・事例分析・データ収集・分析を適切に行う。<br>研究成果を理論的にまとめ発表する。 |
|---|---|

| 授業計画<br>(週ごと) | |
|---|---|
| | 1、オリエンテーション　卒業研究の流れ、テーマ設定の考え方 |
| | 2、音楽療法研究の基礎①　研究領域・主要概念 |
| | 3、Music Medicineの基礎　生理的反応と心理的反応 |
| | 4、音楽反応研究の基礎　評価指標と研究デザイン |
| | 5、研究テーマ探索・方向性の確認 |
| | 6、文献検索の方法 |
| | 7、研究計画書の作成①　目的と背景 |
| | 8、研究計画書の作成②　方法と倫理 |
| | 9、先行研究の整理とレビュー作成 |
| | 10、データの収集計画と立案 |
| | 11、音楽刺激（介入）の設定　楽曲の選択と条件設定 |
| | 12、測定方法の確認　心理的指標と生理的指標 |
| | 13、テータ収集（進捗確認） |
| | 14、データ収集（継続するか見直しするか） |
| | 15、進捗状況の確認と見直し |
| | 16、外れ値・欠損データ除外基準に該当するデータ |
| | 17、データの整理と入力 |
| | 18、データの分析①　基礎統計 |
| | 19、データの分析②　考察の導入 |
| | 20、研究論文の構成（IMRAD） |
| | 21、考察の書き方　研究の意義 |
| | 22、研究論文の執筆（序論） |
| | 23、研究論文の執筆（方法・結果） |
| | 24、研究論文の執筆（考察） |
| | 25、発表資料の作成（powerpointを使用したスライド構成）参考・引用文献の掲載 |
| | 26、参考・引用文献の掲載発表の練習 |
| | 27～28、発表の練習 |
| | 29、卒業研究発表会 |
| | 30、提出物の確認と研究に関して、守秘義務の確認、個人情報の破棄 |

| 教材・参考文献 | 音楽療法臨床ハンドブック　日本音楽療法学会発行<br>日本音楽療法学会誌　第20巻～26巻　日本音楽療法学会発行 |
|---|---|

| 評価方法 | 研究ノート・出席率・研究発表 |
|---|---|

| その他 | 音楽の効果を確認するのは、臨床だけではなく症例や研究として残しておくことが必要です。<br>３年間学んだことの集大成として今後の臨床へ活かせる研究を行ってください。 |
|---|---|

# 楽典

| 開講学科・学年 | 音楽科/療法科<br>Ⅰ/基礎科 |
|---|---|

| 担当講師 | 佐藤叔子 |
|---|---|

| 授業形態 | 講義 |
|---|---|
| 開講期/単位数 | 通年/2（2026） |

| 授業概要 | この授業では、音楽における基礎や決まりを学ぶ。 |
|---|---|

| 到達目標 | 1.音程が分かる 2.各調の音階が分かる 3.和音が分かる 3.和音が分かる 4.最低限の楽語を覚える |
|---|---|

| 授業計画<br>(週ごと) | |
|---|---|
| | 第1回　音とは？　十二平均律　譜表と音名 |
| | 第2回　ドイツ音名、変化記号、音符と休符 |
| | 第3回　リズムと拍子 |
| | 第4回　拍子の変化、シンコペーション |
| | 第5回　速さ、強さに関する表示法 |
| | 第6回　楽語、反復記号　218ページ～220ページ |
| | 第7回　曲想に関する表示法 |
| | 第8回　音程 |
| | 第9回　音程 |
| | 第10回　音程の復習　180ページ～182ページ |
| | 第11回　音程の転回 |
| | 第12回　音程の復習　183ページ～185ページ |
| | 第13回　音階 |
| | 第14回　期末試験の復習 |
| | 第15回　期末試験の復習 |
| | 第16回　長調と短調　　調号 |
| | 第17回　調号の復習 |
| | 第18回　同主調、平行調、属調、下属調 |
| | 第19回　近親調、遠隔調 |
| | 第20回　移調、転調 |
| | 第21回　移調の復習 |
| | 第22回　調の相互関係　206ページ～207ページ |
| | 第23回　調の判定 |
| | 第24回　調の判定の復習 |
| | 第25回　その他の音階 |
| | 第26回　調の復習　208ページ～209へ |
| | 第27回　和音　三和音の種類 |
| | 第28回　転回形 |
| | 第29回　和音の機能 |
| | 第30回　和音の復習　210ページ～212ページ |

| 教材・参考文献 | 教科書　楽典　理論と実習 |
|---|---|

| 評価方法 | 定期試験（筆記）・出席率・授業態度 |
|---|---|

| その他 | |
|---|---|

# 和声学

| 開講学科・学年 | 音楽科/療法科<br>2年/Ⅰ年 |
|---|---|

| 担当講師 | 前田恵 |
|---|---|

| 授業形態 | 講義 |
|---|---|
| 開講期/単位数 | 通年/2（2027） |

| 授業概要 | 自然なハーモニーを生み出すための文法やルールを、主に混声四部合唱（ソプラノ・アルト・テノール・バス）の形式で実践的に研究します。 |
|---|---|

| 到達目標 | 声部の連結・カデンツ・禁止事項を把握してメロディがスムーズに繋がり、かつ調和するように音を配置する技術を学びます。 |
|---|---|

| 授業計画<br>(週ごと) | |
|---|---|
| | 第Ⅰ回：３和音についての説明と基本位置３和音の配置について |
| | 第2回：密集配分・開離配分 |
| | 第3回：基本位置の３和音の連結 |
| | 第4回：課題３・課題４の学習 |
| | 第5回：課題３・課題４の答え合わせ。Ⅱ→Ⅴの連結について |
| | 第6回：Ⅴ→Ⅵの連結について |
| | 第7回：課題６答え合わせ。３和音の機能別分類 カデンツ |
| | 第8回：カデンツの種類 |
| | 第9回：課題９の学習 |
| | 第10回：各種の調の説明 同主調の進行について |
| | 第11回：課題１０・課題１１学習 |
| | 第12回：課題１０・課題１１答え合わせ |
| | 第13回：課題１２の学習 |
| | 第14回：課題１２の答え合わせ |
| | 第15回：今までのまとめ |
| | 第16回：前期の復習 |
| | 第17回：３和音の第１転回位置 |
| | 第18回：課題１３答え合わせ |
| | 第19回：課題１４の学習 |
| | 第20回：課題１４の答え合わせ |
| | 第21回：課題１５の答え合わせ　１転→１転の連結 |
| | 第22回：ⅡⅠの配置連結　課題１７ |
| | 第23回：３和音を含む カデンツ |
| | 第24回：課題１８ |
| | 第25回：バス音の音度について |
| | 第26回：Ⅵ上の和音選択 |
| | 第27回：１９の学習 |
| | 第28回：課題１９前半の答え合わせ |
| | 第29回：課題１９後半の答え合わせ |
| | 第30回：今までのまとめ |

| 教材・参考文献 | 教科書：和声　理論と実習Ⅰ　　音楽之友社 |
|---|---|
| | 参考文献：必要に応じて |

| 評価方法 | ・平常点（出席・態度・小テスト）：１０％ |
|---|---|
| | ・期末試験：９０％ ※学校の基準に合わせて調整 |

| その他 | |
|---|---|
| | |

# コード進行法

| | |
|---|---|
| 開講学科・学年 | 音楽科/療法科<br>Ⅰ/基礎科 |

| | |
|---|---|
| 担当講師 | 前田恵 |

| | |
|---|---|
| 授業形態 | 講義 |
| 開講期/単位数 | 通年/2（2026） |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 基本的なコードネームを理解し三和音のコードネーム、四和音のコードネーム、コード進行のルールを中心に学習します。 |

| | |
|---|---|
| 到達目標 | 和音（コード）の基礎の習得とコードの基本的な進行を学びます。 |

| | |
|---|---|
| 授業計画<br>(週ごと) | 第Ⅰ回：基礎知識・調号 |
| | 第2回：メジャー・マイナースケール |
| | 第3回：音程の種類 |
| | 第4回：コードのトライアドを書く　ｐ２３ |
| | 第5回： 転回について |
| | 第6回： Notes Chordについて細かく説明Ⅰ |
| | 第7回： Notes Chordについて細かく説明２　６の答え合わせ |
| | 第8回： ダイアトニックコードの機能分析 |
| | 第9回： 代理和音について |
| | 第10回：進行・パターン・ドミナントモーションなど |
| | 第11回：ＰⅠⅠ　NoⅠⅠの学習 |
| | 第12回： NoⅠⅠの回答　サークルオブ５ｔｈ |
| | 第13回：Ｔｗｏ　Ｆｉｖｅについて |
| | 第14回：No.Ⅰ３，Ⅰ４の 答え合わせ |
| | 第15回：今までのまとめ |
| | 第16回：前期復習 |
| | 第17回：３和音の第Ⅰ転回位置 |
| | 第18回：課題Ⅰ３答え合わせ |
| | 第19回：課題Ⅰ４・Ⅰ５ |
| | 第20回：課題Ⅰ４の答え合わせ |
| | 第21回：課題Ⅰ５の答え合わせ　Ⅰ転→Ⅰ転の連結 |
| | 第22回：ⅡⅠの配置連結　課題Ⅰ７ |
| | 第23回：３和音を含む カデンツ |
| | 第24回： 課題Ⅰ８ |
| | 第25回： バス音の音度について |
| | 第26回： ⅥⅠ上の和音選択 |
| | 第27回：課題Ⅰ９の学習 |
| | 第28回：課題Ⅰ９前半の答え合わせ |
| | 第29回：課題Ⅰ９後半の答え合わせ |
| | 第30回：今までの復習 |
| | |
| 教材・参考文献 | 教科書：セオリーオブ　ポピュラー＆ジャズⅠ，２ |
| | 参考文献：必要に応じて |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | ・平常点（出席・態度・小テスト）：１０％ |
| | ・期末試験：９０％ ※学校の基準に合わせて調整 |

| | |
|---|---|
| その他 | |

# 西洋音楽史

| | |
|---|---|
| 開講学科・学年 | 音楽科/療法科<br>1/基礎科 |

| | |
|---|---|
| 担当講師 | 前田恵 |

| | |
|---|---|
| 授業形態 | 講義 |
| 開講期/単位数 | 通年/2(2026) |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | この授業では、音楽がどのように生まれ今日のように出来上がってきたのか？西洋音楽の歴史について学びます。<br>西洋音楽の歴史について学びます。 |

| | |
|---|---|
| 到達目標 | 西洋音楽の歴史の流れ、音楽が出来上がっていく人々の環境 |
| | 各時代の作曲科についてわかる |
| | |

| | |
|---|---|
| 授業計画<br>(週ごと) | 第1回： オリエンテーション |
| | 第2回： 古代音楽について |
| | 第3回： 中世音楽について　グレゴリオ聖歌の～ポリフォニー |
| | 第4回： 自主学習：中世～ルネサンスまで本を読んで把握する |
| | 第5回： 中世～ルネサンス１期 |
| | 第6回： ルネサンス２期 |
| | 第7回： ルネサンス３期 |
| | 第8回： バロック～古典派 （オペラと声楽曲） |
| | 第9回： バッハと鍵盤楽器について調べる |
| | 第10回： バロック～古典派 （オペラの分類） |
| | 第11回： 教科書を読みなおしバロック～古典派 |
| | 第12回： バロック～古典派（組曲について ） |
| | 第13回： 交響曲とソナタ形式について |
| | 第14回： ハイドン |
| | 第15回： 中世～古典派までのまとめ |
| | 第16回： 前期の復習 |
| | 第17回： テスト返し |
| | 第18回： 古典派 |
| | 第19回： モーツアルト・ベートーベン |
| | 第20回： 音楽鑑賞 |
| | 第21回： ロマン派について |
| | 第22回： ピアノ音楽 |
| | 第23回： クラッシックコンサート |
| | 第24回： 新古典派について |
| | 第25回： 国民楽派について |
| | 第26回： ブラームス・ワーグナーなど |
| | 第27回： 音楽鑑賞 |
| | 第28回： 印象主義音楽について１ |
| | 第29回： 音楽鑑賞 |
| | 第30回： 今までのまとめ |

| | |
|---|---|
| 教材・参考文献 | 教科書：西洋音楽史の歴史／ARTES／著者 岸本宏子・坂巻和子 |
| | 参考文献：必要に応じて |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | ・平常点（出席・態度・小テスト）：１０％ |
| | ・期末試験：９０％ ※学校の基準に合わせて調整 |

| | |
|---|---|
| その他 | |
| | |

# 音楽心理学

| 開講学科・学年 | 音楽科/療法科<br>音（選択）・療（基、I） |
|---|---|

| 担当講師 | 只木結乃 |
|---|---|

| 授業形態 | 講義 |
|---|---|
| 開講期/単位数 | 通年/2（2026） |

| 授業概要 | 本授業では、教科書『脳と音楽』（世界文化社）をもとに、音楽が人間の心身に与える影響を学ぶ。<br>特に、音と聴覚の仕組みを基盤として、科学的な指標に見る音楽の影響や、発達と音楽の関係について理解を深める。さらに、音楽と感情・記憶・行動との関係を扱い、音楽療法や日常生活における音楽体験とのつながりについても考察する。 |
|---|---|

| 到達目標 | 音と聴覚の基本的な仕組みを理解し、説明できる。 |
|---|---|
| | 科学的な指標に基づいて音楽の影響を捉え、その特徴を説明できる。 |
| | 音楽が感情・記憶・行動に及ぼす影響を理解し、日常生活や音楽療法との関連から考察できる。 |

| 授業計画<br>(週ごと) | 第１回　音と音波 |
|---|---|
| | 第２回　音の三要素 |
| | 第３回　純音と複合音 |
| | 第４回　耳の仕組み |
| | 第５回　脳の仕組み |
| | 第６回　脳を守る仕組み、神経伝達物質 |
| | 第７回　脳科学と心理学 |
| | 第８回　音楽と音響 |
| | 第９回　音の印象判断 |
| | 第10回　音楽の認知① |
| | 第11回　音楽の認知② |
| | 第12回　音楽の認知③ |
| | 第13回　音楽の記憶① |
| | 第14回　音楽の記憶② |
| | 第15回　音楽と他の認知能力 |
| | 第16回　音楽心理学の歴史 |
| | 第17回　音楽と感情① |
| | 第18回　音楽と感情② |
| | 第19回　乳児期の音楽行動 |
| | 第20回　幼児期の音楽行動 |
| | 第21回　児童期の音楽行動 |
| | 第22回　青年期の音楽行動 |
| | 第23回　音楽と脳① |
| | 第24回　音楽と脳② |
| | 第25回　音楽の社会心理学① |
| | 第26回　音楽の社会心理学② |
| | 第27回　音楽心理学と音楽療法の関係① |
| | 第28回　音楽心理学と音楽療法の関係② |
| | 第29回　産業音楽心理学① |
| | 第30回　産業音楽心理学② |

| 教材・参考文献 | 伊藤浩介「脳と音楽」世界文化社 |
|---|---|

| 評価方法 | 定期試験（筆記）・出席率・授業態度 |
|---|---|

| その他 | |
|---|---|

# 世界の音楽

| 開講学科・学年 | 音楽科/療法科<br>1・2/基礎・1 |
|---|---|

| 担当講師 | 吉川賢 |
|---|---|

| 授業形態 | 講義 |
|---|---|
| 開講期/単位数 | 通年/2(2027) |

| 授業概要 | 本授業では、世界各地の民族音楽や伝統音楽、日本音楽、ポピュラー音楽について、歴史・文化・宗教・社会的背景とともに学ぶ。また、リズム、スケール、旋法、楽器、演奏様式など音楽理論の観点から分析し、多様な音楽文化を理解する。 |
|---|---|

| 到達目標 | 1. 世界各地の音楽文化の特徴を理解する。 2. 民族音楽と文化・宗教・歴史との関係を説明できる。<br>3. 各地域のリズムやスケールを理解する。4. アフリカ音楽から現代ポピュラー音楽への流れを説明できる。<br>5. 日本音楽の歴史と特徴を理解する。 6. 世界の音楽を音楽理論の視点から分析できる。 |
|---|---|

| 授業計画<br>(週ごと) | |
|---|---|
| | 第１回　オリエンテーション |
| | 第２回　世界の音楽文化（民族音楽とは・伝統音楽・ポピュラー音楽・音楽と文化） |
| | 第３回　世界のリズム（拍子・シンコペーション・ポリリズム・クラーベ） |
| | 第４回　世界のスケール（ペンタトニック・モード・ラーガ・ブルーススケール） |
| | 第５回　アフリカ音楽①（ポリリズム・コール＆レスポンス・共同体文化） |
| | 第６回　アフリカ音楽②（奴隷貿易・黒人霊歌・ワークソング・フィールドハラー） |
| | 第７回　ブルースの誕生（ブルーノート・12小節ブルース・ブルーススケール） |
| | 第８回　ジャズの誕生（ニューオーリンズ～ビッグバンド） |
| | 第９回　ジャズからロックへ（R&B・ロックンロール・ソウル・ファンク） |
| | 第１０回　アメリカのポピュラー音楽（カントリー・フォーク・ゴスペル） |
| | 第１１回　ラテンアメリカ音楽（サンバ・ボサノヴァ・サルサ・タンゴ） |
| | 第１２回　ヨーロッパ音楽（ケルト・フラメンコ・バルカン音楽・ジプシー音楽） |
| | 第１３回　中東・インド・アジア音楽（マカーム・ラーガ・ガムラン・ケチャ） |
| | 第１４回　東アジア音楽（中国・韓国・モンゴル・伝統音楽） |
| | 第１５回　前期まとめ（民族音楽とポピュラー音楽のつながり） |
| | 第１６回　日本音楽①（雅楽・声明・能・狂言・箏・尺八） |
| | 第１７回　日本音楽②（民謡・祭囃子・沖縄音楽・アイヌ音楽） |
| | 第１８回　日本のポピュラー音楽（流行歌・歌謡曲・ニューミュージック） |
| | 第１９回　J-POPの発展（1970年代～現在・世界との融合） |
| | 第２０回　世界のポピュラー音楽（K-POP・EDM・レゲエ・アフロビート） |
| | 第２１回　宗教と音楽（キリスト教・イスラム教・仏教・祭礼音楽） |
| | 第２２回　民族楽器と発音原理（弦楽器・管楽器・打楽器） |
| | 第２３回　世界の歌唱法（ヨーデル・ホーミー・声明・ゴスペル） |
| | 第２４回　世界の舞踊音楽（民族舞踊・社交ダンス・儀礼音楽） |
| | 第２５回　映画音楽・ゲーム音楽と民族音楽（ワールドミュージックの活用） |
| | 第２６回　現代音楽に見る民族音楽の影響（ジャズ・ロック・ポップス・映画音楽） |
| | 第２７回　音楽理論から見る世界の音楽（リズム・旋法・和声・形式） |
| | 第２８回　世界の音楽分析（代表楽曲の分析・文化背景の考察） |
| | 第２９回　総合演習・各地域の音楽比較（グループディスカッション） |
| | 第３０回　総まとめ |

| 教材・参考文献 | 適宜、資料を配布する |
|---|---|

| 評価方法 | 定期試験（筆記）・出席率・授業態度 |
|---|---|

| その他 | |
|---|---|

# ソルフェージュ

| 開講学科・学年 | 音楽科/療法科<br>1・2/基礎・1 |
|---|---|

| 担当講師 | 佐藤叔子・葛西美紀 |
|---|---|

| 授業形態 | 講義 |
|---|---|
| 開講期/単位数 | 通年/1(2026~2027) |

| 授業概要 | この授業では、音楽を理解し表現するための基礎力を養うことを目的とします。<br>読譜(楽譜を読む力)、視唱(初めて見る楽譜を歌う力)、聴音(音を聴き取り楽譜に書く力)、リズムトレーニングを中心に学習し、音感、リズム感、音楽的表現力を総合的に身につけます。 |
|---|---|

| 到達目標 | 1. 楽譜に記された音程・リズム・拍子を正確に読み取り、視唱できる。<br>2. 聴いた旋律やリズムを正確に聴き取り、楽譜に書きとることができる。<br>3. 基本的な音楽理論(音階・調・音程・和音・拍子等)を理解し、演奏や歌唱に活用できる。<br>4. 正しいリズム感と音感を身につけ、音楽を表現するための基礎能力を習得する。 |
|---|---|

| 授業計画<br>(週ごと) | |
|---|---|
| | 第1回：オリエンテーション／クラス分け |
| | 第2回：リズムの基礎① |
| | 第3回：リズムの基礎② |
| | 第4回：楽譜の基礎① |
| | 第5回：楽譜の基礎② |
| | 第6回：リズム・楽譜の基礎の復習① |
| | 第7回：リズム・楽譜の基礎の復習② |
| | 第8回：リズム・楽譜の基礎の復習③ |
| | 第9回：確認 |
| | 第10回：音程① |
| | 第11回：音程② |
| | 第12回：音階① |
| | 第13回：音階② |
| | 第14回：振り返り |
| | 第15回：前期期末評価 |
| | 第16回：リズム＋視唱の実践① |
| | 第17回：リズム＋視唱の実践② |
| | 第18回：リズム＋視唱の復習① |
| | 第19回：リズム＋視唱の復習① |
| | 第20回：確認 |
| | 第21回：二声のリズム① |
| | 第22回：二声のリズム② |
| | 第23回：聴音の基礎① |
| | 第24回：聴音の基礎② |
| | 第25回：聴音の基礎③ |
| | 第26回：聴音① |
| | 第27回：聴音② |
| | 第28回：聴音③ |
| | 第29回：振り返り |
| | 第30回：期末評価 |

| 教材・参考文献 | リズム練習とソルフェージュ1／全音楽譜出版社／久木山直・当摩泰久・渕上祐子共著<br>全訳コールユーブンゲン/大阪開成館三木楽器株式会社/三木佐知彦 |
|---|---|

| 評価方法 | ・平常点（出席・態度・小テスト）：50%<br>・期末試験（または実技評価）：50% |
|---|---|

| その他 | |
|---|---|

# 医学概論Ⅰ・Ⅱ

| | |
|---|---|
| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>基・1・2 |

| | |
|---|---|
| 担当講師 | 山田量三・武藤紀元 |

| | |
|---|---|
| 授業形態 | 講義 |
| 開講期/単位数 | 集中講義/2（2年間履修で） |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 人体の構造・機能、脳神経系の基礎、主要疾患の発達期差を総合的に理解する。<br>医療システム・地域連携・精神医療の基礎を学び、臨床現場の全体像をつかむ。<br>救急救命法を含む一次対応の基本を身に付け、メディカルスタッフとしての初歩的判断力を養う。 |

| | |
|---|---|
| 到達目標 | 正常構造と主要疾患の関連を説明できる。<br>小児・成人・高齢者の疾病特性と医療体制の仕組みを理解し整理できる。<br>ファーストエイドを安全に実施できる基礎的技能と緊急時の判断プロセスを身に付ける。 |

| | |
|---|---|
| 授業計画<br>(週ごと) | ≪2026年度≫Ⅰ<br>①人体の基礎・脳神経総論<br>・人体の正常構造（細胞・組織・臓器）<br>・脳、神経系の構造<br>・神経疾患の基礎（脳血管障害、認知症、てんかん）<br>・身体症状と精神症状の関連（心身相関）<br>②発達期別疾病の理解<br>・小児期の疾患（小児神経、発達障害）<br>・青年期の疾患（精神疾患の初期像）<br>・中年期の疾患（生活習慣病、メンタルヘルス）<br>・高齢者の疾患（認知症、フレイル）<br>・発達期差による医療ニーズの違い<br><br>≪2028年度≫Ⅱ<br>①医療システム・精神医療・地域連携<br>・日本の医療システム（一次～三次医療）<br>・精神医療の基礎（心療内科、精神科の役割）<br>・地域医療体制（多職種・地域包括ケア）<br><br>②救急救命法（日本赤十字講座）<br>・一次救命処置（CPR/AED）<br>・止血、搬送、緊急時の観察<br><br>●音楽療法臨床中、対象者に嘔吐や熱発などが観られた時の対処<br>●イベント開催中の脱水、貧血、熱中症などの対応 |

| | |
|---|---|
| 教材・参考文献 | 適宜プリントを配布 |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 定期試験（筆記）・出席率・授業参加度 |

| | |
|---|---|
| その他 | 音楽療法を行う臨床現場は医療現場でも広がっています。メディカルスタッフの一員として働くことができるように、現役の医師から医学の基礎知識を学びましょう。 |

# 臨床医学各論Ⅰ

| | |
|---|---|
| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>基・1・2 |

| | |
|---|---|
| 担当講師 | 山田量三 |

| | |
|---|---|
| 授業形態 | 講義 |
| 開講期/単位数 | 集中講義/2（2年間履修で） |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 脳神経の構造・機能と主要な神経疾患を中心に、臨床で必要な基礎的理解を短期集中的に身に付ける。<br>高次脳機能障害の種類と評価、支援の基本を学び、リハビリテーションの考え方を理解する。<br>脳血管障害をはじめとする生活習慣病を概観する。 |

| | |
|---|---|
| 到達目標 | 中枢・末梢神経の構造と機能局在を説明し、主要神経疾患の病態を整理できる。<br>高次脳機能障害（失語・失行・失認・記憶・遂行機能・注意）の特徴と支援の基本を述べられる。<br>主要内科疾患（脳血管障害・糖尿病・心疾患など）を脳神経系との関連で理解し、臨床での観察ポイントを示す。 |

| | |
|---|---|
| 授業計画<br>(週ごと) | 【2026年度】<br>①脳神経の基礎構造（中枢・末梢・機能局在）<br>・中枢神経（大脳・小脳・脳幹・脊髄）の構造<br>・末梢神経、自律神経の基礎<br>・睡眠の神経メカニズム<br>②主要神経疾患<br>・脳血管障害（脳梗塞・脳出血）<br>・パーキンソン病・神経難病（ALS・多系統萎縮症など）<br>・てんかん、意識障害<br>・神経症状の観察（麻痺・感覚障害・歩行・認知）<br>・神経疾患のリハビリテーションの考え方<br><br>【2027年度】<br>①高次脳機能障害<br>・失語症（理解・表出）、失行、失認<br>・記憶障害、注意障害、遂行機能障害<br>・支援方法、評価、リハビリテーション<br>②糖尿病（神経障害・合併症）<br>・心疾患（心不全、不整脈と脳への影響）　呼吸器疾患（COPD、低酸素と認知）<br>・消火器疾患（肝疾患と脳症）　がん（脳転移・全身状態の変化）<br>③横断的理解（脳神経×内科疾患）<br>・内科疾患が脳機能に与える影響<br>・認知症と内科疾患の関連 |

| | |
|---|---|
| 教材・参考文献 | 「標準生理学」医療書院　「高次脳機能障害学」医療書院<br>「カラー図解　脳と神経のしくみ」ナツメ社　「内科診断学」医療書院 |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 定期試験（筆記）・出席率・授業態度 |

| | |
|---|---|
| その他 | |

# 臨床医学各論Ⅱ

| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>基礎科 |
|---|---|

| 担当講師 | 武藤紀元 |
|---|---|

| 授業形態 | 講義 |
|---|---|
| 開講期/単位数 | 集中講義/2（2年間履修で） |

| 授業概要 | |
|---|---|
| | 主な精神疾患の症状・状態像としんだん基準（ICD/DSM-5）を理解し、精神医学の基礎構造を短期集中的に学ぶ。 |
| | 統合失調症・気分障害・不安症・パーソナリティ障害など主要疾患の病態と支援の視点を医学の視点から学ぶ。 |
| | 薬物療法（抗精神薬・抗うつ薬・睡眠薬）とその副作用を臨床的に理解する。 |

| 到達目標 | |
|---|---|
| | 精神疾患の主要症状（不安・抑うつ・幻覚・妄想）と診断基準（ICD/DSM-5）の構造を説明できる。 |
| | 統合失調症・気分障害・不安症・器質性精神疾患・パーソナリティ障害の特徴を整理し、状態像を述べられる。 |
| | 精神科薬物療法の基本と副作用の観察ポイントを理解し、臨床支援に必要な判断の基礎を身に付ける。 |

| 授業計画<br>（週ごと） | |
|---|---|
| | 【2027年度】 |
| | ①精神医学の基礎構造 |
| | ・精神医学とは何か |
| | ・精神医学とは何か主な症状（不安・抑うつ・幻覚・妄想・せん妄） |
| | ・ICD/DSM-5の診断基準の考え方 |
| | ・症状性を含む器質性精神障害の概観 |
| | ②統合失調症 |
| | ・陽性症状と陰性症状、認知機能障害 |
| | ・発症メカニズムの理解 |
| | ・急性期、回復期、伊敷の状態像 |
| | ・支援の基本（環境整備・服薬調整・家族支援） |
| | |
| | 【2028年度】 |
| | ①気分障害・不安症 |
| | ・うつ病（症状、鑑別、自殺リスク評価） |
| | ・双極性障害（パニック症、全般不安症） |
| | ・身体症状との関連（自律神経・睡眠） |
| | ・支援の視点（認知行動療法と音楽療法） |
| | ②パーソナリティ障害と行動症候群 |
| | ・パーソナリティ障害の分類（境界性・反社会性など） |
| | ・行動症候群（接触紹介・睡眠障害・依存症） |
| | ・生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 |
| | ・リスク行動の理解 |
| | ③薬物療法と副作用 |
| | ・抗精神薬（定型と非定型）　・抗うつ薬（SSRI、SNRI・三環系）　・睡眠薬（ベンゾ系、非ベンゾ系） |
| | ・副作用（錐体外路症状、抗コリン作用、依存耐性） |
| | |
| | |
| | |
| | |

| 教材・参考文献 | |
|---|---|
| | 適宜 |
| | |

| 評価方法 | |
|---|---|
| | 定期試験（筆記）・出席率・授業態度 |
| | |

| その他 | |
|---|---|
| | |
| | |

# 臨床心理学Ⅰ

| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>基礎科 |
|---|---|

| 担当講師 | 寺川亜弥子 |
|---|---|

| 授業形態 | 講義 |
|---|---|
| 開講期/単位数 | 前期/2(2026) |

| 授業概要 | この授業では、人間を理解し援助することを目指す臨床心理学と、臨床心理学が援助の対象とする諸問題について解説します。また、人間理解の基礎となる人格心理学・発達心理学の諸理論も学びます。 |
|---|---|

| 到達目標 | |
|---|---|
| | 1. 臨床心理学における対人援助の基本的姿勢と、援助において目指すこと理解する |
| | 2. 臨床心理学が援助の対象とする心理的問題についての知識を身につける |
| | 3. 対象者を理解するための枠組みとしての人格理論と発達理論の諸理論を理解する |

| 授業計画<br>(週ごと) | |
|---|---|
| | 第1回：オリエンテーション／臨床心理学の定義 |
| | 第2回：臨床心理学における援助の目的と対象、援助の領域と援助プロセス |
| | 第3回：行動の学習、上道の役割、欲求とストレス |
| | 第4回：演習①　臨床心理学の基礎についてまとめ |
| | 第5回：問題の理解とかかわり①　問題の分類、神経発達症 |
| | 第6回：問題の理解とかかわり②　不登校、神経症、育児をめぐる問題 |
| | 第7回：問題の理解とかかわり③　心身症、摂食障害、ヒステリー |
| | 第8回：問題の理解とかかわり④　パーソナリティ障害、統合失調症と気分障害 |
| | 第9回：問題の理解とかかわり⑤ |
| | 第10回：心理的援助の基礎理論 |
| | 第11回：人格理論①類型論と特性論、フロイトの精神分析理論 |
| | 第12回：演習②　臨床心理学的援助対象となる諸問題についてまとめ |
| | 第13回：人格理論②ユングの分析的心理学、ロジャースの自己理論、自己愛理論 |
| | 第14回：発達理論　マーラー、ウィニコット、エリクソンによる発達理論 |
| | 第15回：演習③　人格理論と発達理論についてまとめ |
| | （必要に応じて調整） |

| 教材・参考文献 | |
|---|---|
| | ・教科書：心とかかわる臨床心理　基礎・実際・方法／ナカニシヤ出版／川瀬正裕・松本真理子・松本英夫 著 |
| | ・参考文献：よくわかる臨床心理学／ミネルヴァ書房／下山晴彦 編　・教科書の内容を補完する解説資料を、毎回授業前にオンラインで配布 |

| 評価方法 | |
|---|---|
| | ・平常点（出席・態度）：３８％　・課題提出：１２％ |
| | ・期末試験：５０％　※学校の基準に合わせて調整 |

| その他 | |
|---|---|

# 臨床心理学Ⅱ

| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>基礎科 |
|---|---|

| 担当講師 | 寺川亜弥子 |
|---|---|

| 授業形態 | 講義 |
|---|---|
| 開講期/単位数 | 後期/2(2026) |

| 授業概要 | この授業では、臨床心理学的援助の具体的な手法について、心理検査を含むアセスメントの手法と実施目的、援助者に求められる基本的態度と、様々な心理療法の理論及び技法を学びます。 |
|---|---|

| 到達目標 | 1. 心理アセスメントの手法と目的、実施上の注意点を理解する<br>2. 代表的な心理療法の理論及び技法の特徴を理解する<br>3. 援助者として大切な心構えや求められる基本的態度を理解する |
|---|---|

| 授業計画<br>(週ごと) | |
|---|---|
| | 第1回：オリエンテーション／理論に基づいた支援計画と実践 |
| | 第2回：心理アセスメントの手法と目的、結果の利用 |
| | 第3回：演習①　アセスメント結果を活かした支援計画と実践についてまとめ |
| | 第4回：アセスメントの実際①　問題が維持される背景理解、応用行動分析 |
| | 第5回：アセスメントの実際②　心理検査の種類と利用の仕方 |
| | 第6回：アセスメントの実際③　発達検査と知能検査 |
| | 第7回：アセスメントの実際④　人格検査質問紙法・投影法）、神経心理学検査 |
| | 第8回：心理療法の基本的態度 |
| | 第9回：心理療法の実際①　クライエント中心療法 |
| | 第10回：心理療法の実際②　フロイトの精神分析とユングの分析的心理療法 |
| | 第11回：心理療法の実際③　遊戯療法と芸術療法、森田療法 |
| | 第12回：心理療法の実際④　家族療法、行動療法と認知行動療法 |
| | 第13回：心理療法の実際⑤　自律訓練法、集団精神療法　地域とのかかわりと多職種連携 |
| | 第14回：演習②　心理療法についてのまとめ |
| | 第15回：総合演習　臨床心理学的援助についてのまとめ |
| | （必要に応じて調整） |

| 教材・参考文献 | ・教科書：心とかかわる臨床心理　基礎・実際・方法／ナカニシヤ出版／川瀬正裕・松本真理子・松本英夫 著<br>・参考文献：よくわかる臨床心理学／ミネルヴァ書房／下山晴彦 編　・教科書の内容を補完する解説資料を、毎回授業前にオンラインで配布 |
|---|---|

| 評価方法 | ・平常点（出席・態度）：３８％　・課題提出：１２％<br>・期末試験：５０％　※学校の基準に合わせて調整 |
|---|---|

| その他 | |
|---|---|

# 発達心理学

| | |
|---|---|
| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>基礎科 |

| | |
|---|---|
| 担当講師 | 寺川亜弥子 |

| | |
|---|---|
| 授業形態 | 講義 |
| 開講期/単位数 | 通年/2(2027) |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | ヒトの生涯にわたる心理的な発達過程と、各発達段階における発達課題や直面しやすい様々な問題について学ぶ。 |

| | |
|---|---|
| 到達目標 | 発達の理論とライフステージの特徴を体系的に理解する<br>発達上の課題を観察し、適切な支援・関わり方を検討できる<br>発達理解を教育・福祉・音楽療法の実践に応用できる |

| | |
|---|---|
| 授業計画<br>(週ごと) | １～６回 発達の基礎理論<br>発達心理学の歴史 発達心理学における研究法 遺伝と環境<br>フロイト・エリクソン・ハヴィガーストによる発達段階と発達課題<br>クライン・マーラー・ウィニコットの発達理論<br>７～１０回 胎児期～乳児期の発達<br>胎児の発達 身体発達の原理 新生児の発達 運動機能の発達 脳の発達<br>原始反射 乳児の特徴 感情・言語の発達 愛着<br>１１～１５回 幼児期の発達<br>手足の発達 移行現象 自己理解の発達 ピアジェによる思考の発達段階理論<br>自他の認識 内言と外言 遊びと発達 絵の発達 友人関係<br>１６～１９回 児童期の発達<br>仲間とのかかわりの発達 発達加速現象 きょうだい関係と性格形成<br>道徳性の発達 社会学習理論 知能の定義と知能検査 学習のメカニズム<br>達成動機 いじめ<br>２１～２３回 青年期の発達<br>自我同一性の確立 第二次性徴 第二次反抗期 時間的展望 性役割観<br>親子関係の変化 青年期における友人関係の特徴<br>２４～２７回 成人期の発達<br>生活構造の変化 結婚と育児 虐待の定義と通告義務 更年期に見られる心身の変化<br>喪失への対処<br>２８～２９回 高齢期の発達<br>流動性知能と結晶性知能 加齢による記憶の変化 認知症 サクセスフルエイジング<br>死の受容と自我の統合<br>３０回 まとめ |

| | |
|---|---|
| 教材・参考文献 | 手にとるように発達心理学がわかる本 小野寺敦子著 かんき出版<br>適宜プリント使用 |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | ・平常点（出席・態度）：３８％ ・課題提出：１２％<br>・期末試験：５０％　※学校の基準に合わせて調整 |

| | |
|---|---|
| その他 | |

# 社会福祉概論

| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>基礎科 |
|---|---|

| 担当講師 | 木村由希 |
|---|---|

| 授業形態 | 講義 |
|---|---|
| 開講期/単位数 | 後期/2(2026~2027) |

| 授業概要 | この授業では、社会福祉の基本理念や社会保障制度、生存権について学ぶとともに、社会福祉を支える専門職や児童福祉施設の役割について理解を深めます。また、児童虐待、障がい者福祉、高齢者福祉、子ども家庭福祉などの各分野における支援のあり方を学び、ソーシャルワークの視点や地域福祉の実際について考察します。さらに、地域の福祉資源の調査や発表を通して、社会福祉に関する実践的な理解を養います。 |
|---|---|

| 到達目標 | |
|---|---|
| | １．社会福祉の基本理念および社会保障制度の仕組みを理解し、説明できる。 |
| | ２．社会福祉の各分野における支援内容と専門職の役割を理解し、説明できる。 |
| | ３．ソーシャルワークや地域福祉の視点を踏まえ、地域の福祉課題と支援のあり方について考察できる。 |

| 授業計画<br>(週ごと) | |
|---|---|
| | 第１回　オリエンテーション |
| | 第２回　社会福祉の意味と考え方 |
| | 第３回　生存権と社会福祉 |
| | 第４回　社会福祉の実施体制 |
| | 第５回　暮らしを支える社会保障制度 |
| | 第６回　公的扶助 |
| | 第７回　社会福祉の専門職① |
| | 第８回　社会福祉の専門職② |
| | 第９回　自習　課題：身近な社会福祉の専門職について調べる |
| | 第１０回　児童福祉施設の理解①　種類と内容 |
| | 第１１回　児童福祉施設の理解②　施設で働く人の理解 |
| | 第１２回　児童福祉施設の理解③　児童福祉施設としての保育所 |
| | 第１３回　自習　課題：自分の居住地の児童福祉施設について調べる |
| | 第１４回　発表 |
| | 第１５回　まとめ |
| | 以下第１６回～2027年度 |
| | 第１６回　児童虐待の理解①―児童虐待とは― |
| | 第１７回　児童虐待の理解②―児童虐待の実際― |
| | 第１８回　障がい者福祉に関する理解 |
| | 第１９回　自習　課題：自分の居住地の障がい者福祉について調べる |
| | 第２０回　高齢者福祉に関する理解 |
| | 第２１回　自習　課題：自分の居住地の高齢者福祉について調べる |
| | 第２２回　ソーシャルワークとは？ |
| | 第２３回　保育士とソーシャルワーク |
| | 第２４回　子ども家庭福祉の理解　―子ども・家庭を支える制度と支援― |
| | 第２５回　ひとり親家庭と社会福祉　―ひとり親家庭への支援制度と課題― |
| | 第２６回　自習　課題：社会福祉とボランティア活動について調べる |
| | 第２７回　現代社会における福祉課題　―貧困、孤立、ヤングケアラー等の現状― |
| | 第２８回　私の街の社会福祉① |
| | 第２９回　私の街の社会福祉② |
| | 第３０回　まとめ |

| 教材・参考文献 | ・適宜、資料を配布する。 |
|---|---|

| 評価方法 | ・平常点（出席・態度・小テスト）：20%　・課題提出：30% |
|---|---|
| | ・期末課題：50% |

| その他 | |
|---|---|

# 音楽教育学

| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>基礎科 |
|---|---|

| 担当講師 | 只木結乃 |
|---|---|

| 授業形態 | 講義 |
|---|---|
| 開講期/単位数 | 通年/2（2026） |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 本授業では、音楽教育の基礎的理解を深めることを目的とし、音楽教育の歴史的展開を踏まえながら、現代の教育実践について考察する。特に、日本および諸外国における音楽教育の歴史を概観し、学校における音楽教育の目的・内容・方法について理解を深める。また、学校教育以外の音楽教育とメソッド（例：各種音楽教育法や地域・民間での実践）にも目を向け、多様な音楽学習のあり方を考察する。これらを通して、音楽教育を多角的に捉え、自らの音楽教育観を形成することを目指す。 |
| 到達目標 | 音楽教育の歴史的な流れを理解し、その背景とともに説明できる。<br>学校における音楽教育および学校教育以外の音楽教育とメソッドの特徴を理解し、それぞれの意義や役割を比較して説明できる。<br>音楽教育に関する多様な視点を踏まえ、自らの音楽教育観を形成し、論理的に表現できる。 |

| 授業計画<br>(週ごと) | |
|---|---|
| | 第１回　音楽教育とは |
| | 第２回　音楽とは何か　プラクシスの立場から |
| | 第３回　音楽と主体性 |
| | 第４回　音楽とジャンル |
| | 第５回　音楽の要素 |
| | 第６回　音楽の要素を伝える手法 |
| | 第７回　学習指導要領とは |
| | 第８回　歌唱・合唱の授業 |
| | 第９回　器楽・鑑賞の授業 |
| | 第10回　創作の授業 |
| | 第11回　ICT活用と授業の中での活動 |
| | 第12回　音楽教育の歴史① |
| | 第13回　音楽教育の歴史② |
| | 第14回　小学校の音楽授業 |
| | 第15回　中学校の音楽授業 |
| | 第16回　学校の音楽授業でめざすもの |
| | 第17回　授業をデザインする |
| | 第18回　学校行事と音楽授業 |
| | 第19回　地域と学校をつなぐ |
| | 第20回　音楽授業の実践例 |
| | 第21回　教材選択 |
| | 第22回　世界の教育カリキュラム① |
| | 第23回　世界の教育カリキュラム② |
| | 第24回　学校教育以外の音楽教育とメソッド① |
| | 第25回　学校教育以外の音楽教育とメソッド② |
| | 第26回　授業実践① |
| | 第27回　授業実践② |
| | 第28回　授業実践③ |
| | 第29回　授業実践④ |
| | 第30回　音楽教育の未来 |

| 教材・参考文献 | 小川昌文　田邊裕子　戸谷登貴子　田中路　清水稔「よくわかる音楽教育学」ミネルヴァ書房 |
|---|---|

| 評価方法 | 定期試験（筆記）・出席率・授業態度 |
|---|---|

| その他 | |
|---|---|

# 特別支援教育

| | |
|---|---|
| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>基・Ⅰ |

| | |
|---|---|
| 担当講師 | 太田裕子 |

| | |
|---|---|
| 授業形態 | 講義 |
| 開講期/単位数 | 前期/2（2027） |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 特別支援教育の理念・歴史・制度を理解し、障がいのある子どもの発達特性と支援方法を学ぶ。<br>学校・地域・福祉・医療が連携する支援体制を把握し、実践的な指導技術を身に付ける。<br>グループワークや事例検討を通して、子どもの行動理解と親支援を含む専門職としての役割を実践的に考察する。 |

| | |
|---|---|
| 到達目標 | 特別支援教育の基礎（制度・歴史・学校の教育課程）と発達障害の特性を正確に説明できる。<br>子どもの行動課題に対して、適切な支援方法(TEACCH・環境構造化・声かけ技法)を選択し根拠を示して対応する。<br>親支援・地域連携・虐待対応を含む総合的な支援の視点から専門職としての役割や多職種との連携をする。 |

| | |
|---|---|
| 授業計画<br>(週ごと) | 1、授業概要とオリエンテーション<br>2、特別支援教育とは　　歴史・教育課程・システム（通級と支援級）・地域支援体制（特別支援連携協議会の構築）<br>3、子どもの障がい支援　特別支援教育における発達障害の理解と指導　病弱児・院内学級<br>4、地方自治隊における支援体制とその種類　　児童発達支援と放課後等デイサービス・療育手帳、受給者証、障害手帳<br>5、発達障害の特性と教育の特徴　　生活上の工夫　（TEEACH・空間など環境的配慮）・強度行動障害への対応<br>6、シュミレーション学習　領域・場面により、音楽でどのような臨床が可能かを話し合う。<br>7、OSCE　　学生が模擬対象者となり実技評価を行う。<br>8、ケーススタディー　　過去の事例を元にどのような支援が可能であるかの意見を出しまとめる。<br>9、療育とは　　療育の現場で働く専門職・適切な理解と開始の時期・療育が受けられる場所と概要<br>10、障がいをもつ子どもへの対応　声かけ・場面の切り替え・集団の中の個人<br>11、LD　学習障害の子どもへの指導<br>12、親支援・家族支援　　ヤングケアラー、50-80問題、<br>13、合理的配慮・インクルーシブ教育システム（最新の法制度について）<br>14、個別の教育支援計画・個別の指導計画　「特性のある子どもを想定した音楽療法ではない支援計画書作成」<br>15、医療（小児専門医・小児神経専門医・発達障害支援の専門医）・心理との連携 |

| | |
|---|---|
| 教材・参考文献 | 「発達障害の子の療育が全部わかる本」原哲也著　講談社<br>「特別支援教育のテキスト」小林倫代編・著　Gakken |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 定期試験（筆記）・出席率・授業態度 |

| | |
|---|---|
| その他 | |

# 保育概論

| | |
|---|---|
| 開講学科・学年 | |

| | |
|---|---|
| 担当講師 | 木村由希 |

| | |
|---|---|
| 授業形態 | 講義 |
| 開講期/単位数 | 前期/2(2026～2027) |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | この授業では、生命の誕生から子どもの発達、保育制度、保育施設、遊び、子育て支援まで、保育の基礎的な知識と考え方を学びます。それらを通じて、子ども理解を深めるとともに、現代社会における保育の現状や課題について考察します。また、地域の保育施設や子育て支援に関する調査・レポート作成を通して、保育を取り巻く環境への理解を深めます。 |

| | |
|---|---|
| 到達目標 | １．子どもの発達や行動の特徴を理解し、保育における子ども理解の重要性について説明できる。 |
| | ２．保育制度や保育施設の役割、保育所保育指針の内容について基礎的な知識を身に付け、説明できる。 |
| | ３．現代社会における保育・子育て支援の現状と課題を理解し地域調査やレポート作成を通して自らの考えを表現できる。 |

| | |
|---|---|
| 授業計画<br>(週ごと) | 第１回　オリエンテーション　授業について |
| | 第２回　生命の誕生　赤ちゃん〇×クイズ |
| | 第３回　赤ちゃんってすごい！ |
| | 第４回　保育における子ども理解①　子どもが見る世界 |
| | 第５回　保育における子ども理解②　子どもを見る「まなざし」 |
| | 第６回　保育における子ども理解③　子どもの行為の意味を探る |
| | 第７回　保育制度の理解①（幼稚園・保育所の違い） |
| | 第８回　自習　課題：自分の居住地の保育施設調査 |
| | 第９回　自習　課題：探求レポート |
| | 第１０回　保育制度の理解②（幼稚園・保育所の歴史的あゆみ） |
| | 第１１回　保育制度の理解③（認定こども園） |
| | 第１２回　保育施設の理解 |
| | 第１３回　現代社会が抱える保育の現状と課題① |
| | 第１４回　現代社会が抱える保育の現状と課題② |
| | 第１５回　自習：まとめレポート |
| | 以下第１６回～2027年度 |
| | 第１６回　保育所保育指針とは |
| | 第１７回　保育所保育指針に基づく保育の理解 |
| | 第１８回　保育と環境 |
| | 第19回　保育と環境 |
| | 第２０回　子どもと遊び |
| | 第２１回　自習　課題：自分の遊び経験についてレポート作成 |
| | 第２２回　子どもにとっての遊びの意味 |
| | 第２３回　子どもにとっての遊びの意味 |
| | 第２４回　子育て支援に求められること |
| | 第２５回　子育て支援の具体的方法 |
| | 第２６回　自習　課題：自分の居住地の子育て支援策について |
| | 第２７回　自習：課題：レポート作成 |
| | 第２８回　子どもを取り巻く環境の理解 |
| | 第29回　子どもを取り巻く環境の理解 |
| | 第３０回　まとめ |

| | |
|---|---|
| 教材・参考文献 | 保育所保育指針（２０１７年告示）フレベール館2017厚生労働省 |
| | 適宜、資料を配布する |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | ・平常点（出席・態度・小テスト）：20%　・課題提出：30% |
| | ・期末レポート：50% |

| | |
|---|---|
| その他 | |

# アンサンブル理論と実践

| | |
|---|---|
| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>基礎科 |

| | |
|---|---|
| 担当講師 | 吉川賢 |

| | |
|---|---|
| 授業形態 | 実技/講義 |
| 開講期/単位数 | 通年/3(2026~2028) |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 本授業では、アンサンブルの基本理念から室内楽、吹奏楽、オーケストラ、バンドアンサンブルまで幅広い演奏形態について学ぶ。音楽のテクスチュア、スコアリーディング、楽器編成、編曲法、リードシートの活用などを理論的に理解するとともに、実際のアンサンブル演習を通して、演奏者間のコミュニケーションや音楽表現を実践的に身につける。 |

| | |
|---|---|
| 到達目標 | • アンサンブルの基本概念を理解する。• 楽器編成と各パートの役割を理解する。• スコアを読み取り分析できる。<br>• リードシートから基本的なアレンジができる。• アンサンブルに必要なコミュニケーション能力を身につける。<br>• 演奏を通して音楽表現を高めることができる。 |

| | |
|---|---|
| 授業計画<br>(週ごと) | 第１回　オリエンテーション |
| | 第２回　アンサンブルとは何か・音楽のテクスチュア |
| | 第３回　基本アンサンブル（ユニゾン・モノフォニー） |
| | 第４回　ポリフォニー・ホモフォニー・ヘテロフォニー |
| | 第５回　楽器編成（室内楽・吹奏楽・オーケストラ・バンド） |
| | 第６回　楽器編成（トリオ・カルテット・ビッグバンド・バンド） |
| | 第７回　編成別アンサンブル実習 |
| | 第８回　スコアリーディング基礎 |
| | 第９回　スコアを見ながらアンサンブル |
| | 第１０回　リードシートの読み方 |
| | 第１１回　リードシートによるアンサンブル |
| | 第１２回　ボイシング・声部配置・楽器の役割 |
| | 第１３回　ボイシングを意識した演奏 |
| | 第１４回　前期まとめ・前期実技確認 |
| | 第１５回　前期まとめ |
| | 第１６回　編曲法①（アンサンブルアレンジの考え方） |
| | 第１７回　編曲した内容を演奏 |
| | 第１８回　編曲法②（イントロ・エンディング・オブリガート） |
| | 第１９回　編曲作品の演奏 |
| | 第２０回　演奏表現（アーティキュレーション・フレージング） |
| | 第２１回　表現を意識したアンサンブル |
| | 第２２回　ダイナミクス・音色・バランス |
| | 第２３回　音量・音色バランス実習 |
| | 第２４回　指揮・リーダーシップ・コミュニケーション |
| | 第２５回　指揮者を立てたアンサンブル |
| | 第２６回　演奏分析と練習計画 |
| | 第２７回　楽曲仕上げ実習 |
| | 第２８回　演奏発表準備 |
| | 第２９回　アンサンブル成果発表 |
| | 第３０回　振り返り・総まとめ |

| | |
|---|---|
| 教材・参考文献 | 適宜、資料を配布する |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 定期試験・出席率・授業態度 |

| | |
|---|---|
| その他 | |

# ピアノ基礎

| | |
|---|---|
| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>基礎科 |

| | |
|---|---|
| 担当講師 | 佐藤叔子 |

| | |
|---|---|
| 授業形態 | 実技/講義 |
| 開講期/単位数 | 通年1単位/年(3年間) |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | この授業では、ピアノの基礎である音階と連弾を弾く。又、人の演奏を聴く事で、自分の演奏に生かす。 |

| | |
|---|---|
| 到達目標 | 1.音階と和音が弾ける<br>2.調性が分かる<br>3.連弾を通してアンサンブルの楽しさを味わう |

| | |
|---|---|
| 授業計画<br>(週ごと) | 第1回　授業の説明、連弾のペアを組む<br>第2回　　ハノン39番かベレンスの連弾の実技<br>第30回まで同様に実施 |

| | |
|---|---|
| 教材・参考文献 | ベレンス　五つの音による初歩者のための連弾曲集(全音楽譜出版社)<br>全訳ハノンピアノ教本(全音楽譜出版社) |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 平常点　　66%　・　期末試験　34% |

| | |
|---|---|
| その他 | |

# 楽器音響学

| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>基礎科 |
|---|---|

| 担当講師 | 吉川賢 |
|---|---|

| 授業形態 | 講義 |
|---|---|
| 開講期/単位数 | 通年　／　２ |

| 授業概要 | 本授業では、音楽を構成する「音」の物理的性質を基礎から学び、音波の伝搬、倍音、共鳴、聴覚、音律の歴史を理解したうえで、弦楽器・管楽器・打楽器・鍵盤楽器など各種楽器の発音構造や音響特性について体系的に学習する。 |
|---|---|

| 到達目標 | 1．音の三要素と音波の性質を理解する。 2．音波の伝搬現象を説明できる。<br>3．倍音と共鳴が音色形成に果たす役割を理解する。4．音律の歴史と各音律の特徴を説明できる。 5．各種楽器の発音原理を理解する。6．楽器ごとの音響特性を説明できる。 7．室内音響・ホール音響の基礎を理解する。<br>8．音響学の知識を演奏・教育・作曲・編曲へ応用できる。 |
|---|---|

| 授業計画<br>(週ごと) | |
|---|---|
| | 第１回　オリエンテーション |
| | 第２回　音とは何か（振動・音波・媒質・縦波） |
| | 第３回　音の三要素（高さ・大きさ・音色） |
| | 第４回　周波数と波形（正弦波・複合波・周期） |
| | 第５回　音波の性質①（反射・吸音・透過） |
| | 第６回　音波の性質②（屈折・回折・干渉・うなり） |
| | 第７回　共鳴とドップラー効果（固有振動・共鳴・音速） |
| | 第８回　倍音列と音色（基音・倍音・倍音構造） |
| | 第９回　聴覚の仕組み（耳の構造・可聴域・マスキング・定位） |
| | 第１０回　音律の歴史①（ピタゴラス律） |
| | 第１１回　音律の歴史②（純正律） |
| | 第１２回　音律の歴史（中全音律・ウェル・テンペラメント・平均律） |
| | 第１３回　自習　楽器を自作して音律を学ぶ |
| | 第１４回　発表 |
| | 第１５回　前期まとめ（理解度確認） |
| | 第１６回　楽器分類学・ホルンボステル＝ザックス分類 |
| | 第１７回　弦楽器の音響学 |
| | 第１８回　管楽器の音響学 |
| | 第１９回　打楽器の音響学 |
| | 第２０回　鍵盤楽器の音響学 |
| | 第２１回　声の音響学（声帯振動・共鳴腔・フォルマント） |
| | 第２２回　民族楽器の音響学（世界の発音原理・共鳴構造） |
| | 第２３回　楽器材料と音響特性（木材・金属・竹・皮・合成素材） |
| | 第２４回　楽器形状と共鳴構造（共鳴箱・響板・管長・ベル） |
| | 第２５回　音量・音域・音色の比較・楽器間比較 |
| | 第２６回　演奏法による音響変化（アーティキュレーション・奏法による倍音変化） |
| | 第２７回　アンサンブルと音響（音の混ざり方・配置・音響バランス） |
| | 第２８回　演奏空間の音響①（残響・初期反射・音の広がり） |
| | 第２９回　演奏空間の音響②（ホール・教室・ライブハウス・野外） |
| | 第３０回　総まとめ |

| 教材・参考文献 | 適宜、資料を配布する |
|---|---|

| 評価方法 | 定期試験（筆記）・出席率・授業態度 |
|---|---|

| その他 | |
|---|---|

# 保育士受験講座

| | |
|---|---|
| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>基礎科 |

| | |
|---|---|
| 担当講師 | 木村由希 |

| | |
|---|---|
| 授業形態 | 講義 |
| 開講期/単位数 | 集中講義/　２ |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 年２回の国家資格試験の傾向と対策を行う<br>実技試験対策 |

| | |
|---|---|
| 到達目標 | 保育士国家資格の取得 |

| | |
|---|---|
| 授業計画<br>(週ごと) | １、受験資格と申請方法<br><br>２、受験科目別指導<br>①保育原理 ②教育原理 ③社会的養護 ④子ども家庭福祉 ⑤社会福祉<br>⑥保育の心理学 ⑦子どもの保健 ⑧子どもの食と栄養 ⑨保育実習理論<br><br>３、過去問題と解答のコツ<br><br>４、要点の確認<br><br>５、実技試験対策<br>①ピアノ演奏（歌唱伴奏） ②絵本の読み聞かせ ③造形<br><br>６、自己採点と振り返り（受験後）<br><br>７、次回受験に向けての各自の対策確認 |

| | |
|---|---|
| 教材・参考文献 | ○保育士 合格テキスト（上）（下）翔泳社<br>○保育士過去問題集 翔泳社 |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 提出物（レポート）、出席状況、平常点を総合して評価。 |

| | |
|---|---|
| その他 | |

# 英語

| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>基礎科 |
|---|---|

| 担当講師 | |
|---|---|

| 授業形態 | 講義 |
|---|---|
| 開講期/単位数 | 通年　/　２ |

| 授業概要 | 会話を中心とした内容により基礎的文法を習得し、グループ単位の発表などを通して表現力を身につける。 |
|---|---|

| 到達目標 | 簡単な日常英会話が理解できる |
|---|---|

| 授業計画<br>(週ごと) | |
|---|---|
| | ～study English to conversation.～ |
| | ・Self introduction |
| | ・The conversation you need to travel. |
| | ・Want to know the pronunciation of native speakers. |
| | |
| | １．日常会話（シーンに合わせた会話） |
| | ・Ａｓｋｉｎｇ for Tourist Information |
| | ・Spending Time in London |
| | ・Taking Taxi |
| | ・At Passport Control |
| | |
| | ２．紹介する |
| | ・Ｍｙ ｃｉｔｙ Ｇｕｉｄｅ ｔｏ： |
| | ・Ｍｙ Ｊｏｂ ｉｓ： |
| | |
| | ３．世界の料理 |
| | 各国の料理を通して文化や風土を知る |
| | ・Ｗｈｉｃｈ ｃｏｕｎｔｒｙ ｉｓ ｔｈｉｓ ｄｉｓｈ ｆｒｏｍ？ |
| | ・Ｐｌｅａｓｅ ｔｅｌｌ ｍｅ ｔｈｅ ｃｈａｒｍ ｏｆ ｙｏｕｒ ｃｏｕｎｔｒｙ． |
| | |
| | ５．グループワーク |
| | Ｆｉｎｄ ｔｈｅ ｅｍｏｔｉｏｎｓ ｉｎ ｔｈｅ ｃｉｔｙ ａｎｄ ａｎｓｗｅｒ ｉｎ Ｅｎｇｌｉｓｈ． |

| 教材・参考文献 | 適宜配布 |
|---|---|

| 評価方法 | 定期試験（筆記）・出席率・授業態度 |
|---|---|

| その他 | |
|---|---|

# 音楽療法士受験講座

| | | | |
|---|---|---|---|
| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>基礎科 | 担当講師 | 太田裕子 |

| | |
|---|---|
| 授業形態 | 講義 |
| 開講期/単位数 | 通年/2（2028） |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 認定音楽療法士資格試験の受験科目である、筆記と実技、口頭試問の受験対策を行う。<br>受験対策を通して、３年間の学びの集大成とする。 |
| 到達目標 | 日本音楽療法学会　認定音楽療法士の資格を取得する。<br>資格取得後に臨床を行う際、認定試験の座学、実技が実践に活かせるよう総まとめを行う。 |
| 授業計画<br>（週ごと） | 【筆記試験対策】<br>・日本音楽療法学会　資格認定委員会　試験問題検討委員会発行の「日本音楽療法学会認定音楽療法士試験問題解説集」を基に取り組む。<br>・楽典、心理学、医学、音楽療法、倫理、音響学、統計学、その他、分野別にノートを整理する。<br><br>【実技試験対策】<br>・課題曲8曲すべての曲の解釈、臨床にどのように使用される可能性があるのかをディスカッションする。<br>・各自選択した課題曲の臨床の場面を考え、みんなの前で発表する。<br>・歌唱伴奏をそれぞれ行う。<br><br>【口頭試問対策】<br>・行った歌唱伴奏、臨床場面の説明から予測される問答をそれぞれ書き出す。<br>・これまで勉強してきた音楽療法の知識から予測される質問をそれぞれ書き出す。<br>・音楽療法の資質について考える。<br><br>・筆記試験の流れなどの確認<br>・面接試験事前指導 |
| 教材・参考文献 | 「日本音楽療法学会認定音楽療法士試験問題解説集」日本音楽療法学会発行<br>「音楽療法臨床ハンドブック」 日本音楽療法学会発行　ほか |
| 評価方法 | |
| その他 | 資格試験に向かってみんなで頑張ろう！　仲間と一緒に認定音楽療法士の資格を取得しよう！ |

# 演奏解釈

| | | | |
|---|---|---|---|
| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>基礎科 | 担当講師 | 只木結乃 |

| | |
|---|---|
| 授業形態 | 講義 |
| 開講期/単位数 | 通年/２（2026） |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 本授業では、音楽作品の楽式（形式）および構造分析を基礎とし、演奏解釈へと結びつける力を養うことを目的とする。楽譜に基づき、動機・楽節・和声進行・形式構造を段階的に分析し、それらが演奏表現（テンポ、ダイナミクス、アーティキュレーション等）にどのように関わるかを考察する。<br>授業では、音楽之友社『名曲で学ぶ 楽式と分析』を用い、各回1曲程度を取り上げながら、二部形式・三部形式・変奏曲・ロンド形式などの基本的な楽式を学ぶ。さらに、演奏の比較等の演習を通して、多様な解釈の在り方を理解し、自らの解釈を言語化する力を養う。<br>後期ではソナタ形式を中心に扱い、より大規模な構造の理解と、それに基づく演奏解釈の構築を目指す。 |

| | |
|---|---|
| 到達目標 | 音楽作品の基本的な楽式（形式）を判別できる。 |
| | 楽譜に基づき、構造・和声・フレーズを分析できる。 |
| | 分析結果をもとに、自らの演奏解釈を論理的に説明できる。 |

| | |
|---|---|
| 授業計画<br>(週ごと) | 第１回　導入・分析の基本　著作権法 |
| | 第２回　動機　主題　楽節 |
| | 第３回　一部形式・二部形式 |
| | 第４回　三部形式 |
| | 第５回　複合形式 |
| | 第６回　変奏曲の手法 |
| | 第７回　変奏曲の分析① |
| | 第８回　変奏曲の分析② |
| | 第９回　変奏曲の分析③ |
| | 第10回　装飾音・装飾記号 |
| | 第11回　ロンド形式 |
| | 第12回　独立楽曲① |
| | 第13回　独立楽曲② |
| | 第14回　総合演習 |
| | 第15回　総合演習 |
| | 第16回　ソナタ形式 |
| | 第17回　ソナタ形式　提示部 |
| | 第18回　ソナタ形式　展開部 |
| | 第19回　ソナタ形式　再現部 |
| | 第20回　平行カノン　反行カノン |
| | 第21回　逆行カノン　拡大カノン |
| | 第22回　舞曲と行進曲① |
| | 第23回　舞曲と行進曲② |
| | 第24回　フーガ形式① |
| | 第25回　フーガ形式② |
| | 第26回　近代フランス音楽の様式 |
| | 第27回　楽曲分析のまとめ |
| | 第28回　演奏の比較 |
| | 第29回　総合演習 |
| | 第30回　総合演習 |

| | |
|---|---|
| 教材・参考文献 | 柳田孝義「名曲で学ぶ楽式と分析」音楽之友社 |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 定期試験（筆記）・出席率・授業態度 |

| | |
|---|---|
| その他 | |

# 昭和歌謡史

| | | | |
|---|---|---|---|
| 開講学科・学年 | 音楽科/音楽療法科<br>基礎科 | 担当講師 | 太田裕子 |

| | |
|---|---|
| 授業形態 | 講義 |
| 開講期/単位数 | 集中講義/2（2026） |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 昭和20年代から平成中期までの日本の歌謡史を、時代背景・社会風俗とともに体系的に学ぶ。<br>実際に楽曲を聴きながら、ジャンル・歌詞・メディアの変化を体験的に理解する。<br>動揺唱歌の基礎も補い、日本人の音楽文化の土台から現代までを総合的に把握する。 |
| 到達目標 | 各年代の代表的なアーティスト・楽曲・ジャンルの特徴を説明できる。<br>歌謡曲と社会（政治・経済・メディア・流行）の関係を自分の言葉で説明し、臨床に役立てる。<br>動揺唱歌～昭和歌謡～平成ポップスまでの連続性を理解し、音楽文化を批判的に捉えることができる。 |
| 授業計画<br>（週ごと） | 1，昭和歌謡とは何か？<br>・戦後復興、高度成長、テレビの普及、レコード産業の発展<br>・イントロの長い昭和VSイントロが消えた令和　比較（メディア環境の変化）<br><br>2，日本の音楽文化の基礎：動揺唱歌<br>・「ふるさと」「赤とんぼ」「花」「夏の思い出」など歴史的背景<br>・文部省唱歌の成立、旋律の特徴（四七抜き音階に感じるノスタルジー）、歌詞の日本語力<br>・小中高で学んでいない現状を踏まえ、音楽文化の“土台”としての位置付け<br><br>3，昭和20年代～30年代：戦後の歌謡曲<br>・GHQ統治、ラジオ文化、「銀幕のスター」映画主題歌の黄金時代<br>・美空ひばり、江利チエミ、雪村いづみ「和声ポップスの萌芽」　・ブギ、ジャズ、ハワイアンの影響と「明るさ」の象徴<br><br>4，昭和40年代：演歌・ムード歌謡の確率<br>・演歌の語法（こぶし、節回し、情念）　舟木一夫、森進一、五木ひろし、八代亜紀<br>・ムード歌謡：ロス・プリモス、内山田洋とクールファイブ　「夜の街の音楽」として社会的背景<br><br>5，昭和50年代：ニューミュージックの台頭<br>・フォークからの転換、個人の内面を歌う時代へ<br>荒井由実（松任谷）、中島みゆき、井上陽水、オフコース<br>・シンガーソングライター文化と若者の価値観の変化<br><br>6，昭和50～60年代：アイドルブームとシティーポップ<br>・山口百恵、松田聖子、中森明菜、ジャニーズ、花の82年組　スターを育てるテレビとファン文化（親衛隊）<br>・山下達郎、竹内まりや、 杏里、稲垣潤一　シティーポップとサーフミュージック<br>≪振り付け≫<br>・レコードジャケットの裏のピングレディーvs SNSで即再生できる現代　メディア技術の変容<br><br>7，昭和末期～平成初期：バンドブーム<br>・BOOWY、レベッカ、プリンセスプリンセス、SYOW-YA、ブルーハーツ<br>・バンドサウンドの特徴（ギターのリフ、シンセサイザー、リズムの変化）　※カセット・CD・MD・iPod ・ｽﾄﾘｰﾐﾝｸﾞ |
| 教材・参考文献 | 「明星」「平凡」集英社　「GB」CBSソニー出版<br>「流行歌で振り返る昭和100年」合田道人著 笠間書院 |
| 評価方法 | 授業態度・レポート提出 |
| その他 | |

# 総合科目Ⅰ

| | |
|---|---|
| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>基礎科 |

| | |
|---|---|
| 担当講師 | 太田/吉川/只木 |

| | |
|---|---|
| 授業形態 | 実技・実習 |
| 開講期/単位数 | 通年２単位/年 |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 各種講座等の受講により、様々な知識を幅広く身につけるとともに、社会人としてのマナー、集団活動での自主性、協調性などを養う。 |

| | |
|---|---|
| 到達目標 | 社会人としてのマナーや心構えが身につく |

| | |
|---|---|
| 授業計画<br>(不定期) | （各種特講の実施）<br>・救急法（日本赤十字社協力）<br>・ＭＩＤＩ検定受験のための対策講座<br>・年金講座<br>・手話講座・・・基本的な手話技術のマスター<br>・桐朋音楽大学付属音楽教室主催の講師による講座<br>・外部演奏家による演奏会<br>・就職活動におけるマナー講座（ハローワーク水戸連携）<br>・テーブルマナー講習（水戸プラザホテル指導）<br>など |

| | |
|---|---|
| 教材・参考文献 | 適宜配布 |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | レポート・出席率・参加度 |

| | |
|---|---|
| その他 | |

# 総合科目Ⅱ

| | |
|---|---|
| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>基礎科 |

| | |
|---|---|
| 担当講師 | 只木・吉川・太田 |

| | |
|---|---|
| 授業形態 | 実技・実習 |
| 開講期/単位数 | 通年２単位/年 |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 学内外での活動を行うことにより、他者と円滑にコミュニケーションをとるための能力を養う。<br>・療法科はヒトに関わる専門職として、関わりについて学ぶ。<br>・音楽科は出演者として支えてくれる音楽制作スタッフ、技術スタッフ、運営スタッフの仕事を知り経験する。 |

| | |
|---|---|
| 到達目標 | 他者との円滑なコミュニケーション力を身につけ、協調性のある人間になる |

| | |
|---|---|
| 授業計画<br>(週ごと) | ・外部施設における行事等への参加とその準備活動 |
| | 福祉施設での演奏活動、ボランティアの体験など |
| | |
| | ・学校行事 |
| | 学内イベント（前後期） |
| | 施設コンサート（前後期）（生活支援施設利用者招待） |
| | 研修旅行 |
| | 学園祭（飲食店出店・ライブ企画運営・出演・校舎内デザイン） |
| | 謝恩会の企画運営 |
| | |
| | ・地域で開催されるイベント・祭りへの参加 |
| | スタッフ協力 |
| | 演奏・音楽療法など出演 |
| | 水戸・黄門祭りへの参加 |
| | 音楽療法学術大会へのボランティア参加 |

| | |
|---|---|
| 教材・参考文献 | 適宜配布 |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | レポート・出席率・参加度 |

| | |
|---|---|
| その他 | |

# 第三実技

| | |
|---|---|
| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>基礎科 |

| | |
|---|---|
| 担当講師 | 実技担当 |

| | |
|---|---|
| 授業形態 | 実技・実習 |
| 開講期/単位数 | 通年1単位/年 |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 音楽そのものの理解をし、必修実技以外の表現方法、テクニックを学ぶ。 |

| | |
|---|---|
| 到達目標 | |

| | |
|---|---|
| 授業計画<br>(週ごと) | ・各楽器の特性を理解する<br>・各楽器の奏法を身につける<br>・各ジャンルのリズム特性を活かした演奏法を身につける<br>・他の楽器とのハーモニーの楽しみ方、見せ方を学ぶ |

| | |
|---|---|
| 教材・参考文献 | 適宜教材配布 |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 定期実技試験・出席率 |

| | |
|---|---|
| その他 | |

# ピアノ

| | |
|---|---|
| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>基礎科 |

| | |
|---|---|
| 担当講師 | ・佐藤叔子・川田はるみ<br>・只木結乃 |

| | |
|---|---|
| 授業形態 | 実技・実習 |
| 開講期/単位数 | 通年1単位/年 |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 鍵盤楽器は広く普及している楽器であり、応用範囲が広いため鍵盤楽器の基本的な演奏技術の育成を行う |

| | |
|---|---|
| 到達目標 | 簡単な大譜表の曲を、楽譜通りに両手で視奏できる |

| | |
|---|---|
| 授業計画<br>(週ごと) | 運指（指の独立）<br>演奏表現（ブレス、フレージング、ダイナミック） など<br><br>・臨床場面で必要な演奏スキルや演奏表現をクラシックのピアノ曲で取得させる<br><br>・ピアノ演奏における感情表現を音で出せるよう指導する<br><br>※各講師は以上の共通意識を持った上で指導法については各講師の指導法に任せるものとする。 |

| | |
|---|---|
| 教材・参考文献 | 「ハノン」 「ツェルニー」「ソナチネ」 「ピアノ曲集」 など |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 実技試験、平常点により評価 |

| | |
|---|---|
| その他 | |

# ギター（音楽科・療法科）

| | |
|---|---|
| 開講学科・学年 | 音楽療法科<br>基礎科 |

| | |
|---|---|
| 担当講師 | 山田佳郎・服部文哉 |

| | |
|---|---|
| 授業形態 | 実技・実習 |
| 開講期/単位数 | 通年1単位/年 |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 【音楽科】独奏・または伴奏の演奏スキルを向上させる<br>【療法科】音楽療法の臨床に活用できるコード奏・伴奏・弾き歌い技術の育成を行う |

| | |
|---|---|
| 到達目標 | 【音楽科】独奏・伴奏に必要な多様なスキルを身に付ける。その技術を他者に教えることができる。<br>【音楽療法科】調弦やメンテナンスを自身で行う事ができる。<br>基本的なコード、伴奏パターンが演奏でき、弾き歌いをしながら対象者に合わせることができる。 |

| | |
|---|---|
| 授業計画<br>(週ごと) | 個人レッスン対応となります。<br>主科：５０分間　　副科25分間　　年間３０回 |

| | |
|---|---|
| 教材・参考文献 | |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 定期試験（筆記）・出席率・授業態度 |

| | |
|---|---|
| その他 | |